

## 芸術ワーキンググループにおける検討事項

1. 芸術系科目を通じて育成すべき資質・能力について
  - ・芸術系科目を学ぶ本質的な意義や他教科との関連性について
  - ・三つの柱に沿った育成すべき資質・能力の明確化について
    - i) 何を知っているか、何ができるか（個別の知識・技能）
    - ii) 知っていること・できることをどう使うか（思考力・判断力・表現力等）
    - iii) どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びに向かう力、人間性など）
  - ・幼稚園・小学校・中学校・高等学校を通じた芸術系科目において育成すべき資質・能力の系統性について
  - ・芸術系科目において育成すべき資質・能力と指導内容との関係について
2. アクティブ・ラーニングの三つの視点（※）を踏まえた、資質・能力の育成のために重視すべき芸術系科目の指導等の改善充実の在り方について
3. 資質・能力の育成のために重視すべき芸術系科目の評価の在り方について
4. 必要な支援（特別支援教育の観点から必要な支援等を含む）、条件整備等について

※アクティブ・ラーニングの三つの視点（企画特別部会「論点整理」18ページ参照）

- i) 習得・活用・探究という学習プロセスの中で、問題発見・解決を念頭に置いた深い学びの過程が実現できているかどうか。
- ii) 他者との協働や外界との相互作用を通じて、自らの考えを広げ深める、対話的な学びの過程が実現できているかどうか。
- iii) 子供たちが見通しを持って粘り強く取り組み、自らの学習活動を振り返って次につなげる、主体的な学びの過程が実現できているかどうか。

# 小・中・高を通じ、音楽科、芸術科（音楽）において 育成すべき資質・能力の整理（検討のたまき台）

平成28年2月23日  
会議課 程部会  
芸術ワークシングループ  
(第5回) 資料3-1(修正)

## 個別の知識や技能

### 思考力・判断力・表現力等

### 学びに向かう力、人間性等

・音符、休符、記号や音楽に關わる用語の意味

や動きを理解したり、音楽的な特徴や構造と  
曲想との関わりについて理解したりすること  
など

・音楽に対する感性を働かせ、音楽を形づくっている  
要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白  
さなどを感じ取りながら、知識や技能を得たり活  
用したりして、音楽表現を創意工夫し、どのように  
表すかについて思いや意図をもつ、音楽表現の創造  
に関する能力

・聴唱や聽奏、視唱や視奏、声や音を合わせる  
など、自分で音楽表現をしたり友達と一緒に  
音楽表現をしたりするために必要な技能や、  
自分の思いや意図を音楽で表現するために必  
要な技能

小学校  
音楽

・音楽に対する感性を働かせ、音楽を形づくっている  
要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白  
さなどの感じ取りながら、知識を得たり活用した  
りして、楽曲の特徴や演奏のよさなどを考え方わう、  
音楽のよさなどを見いだす能力

・協働して音楽活動する喜び  
・音楽への関心・意欲・態度  
・感性  
・音楽を愛好する心情  
・我が国や諸外国の音楽に親しみ、  
それらを大切にしようとする態度  
・生活の中の様々な音や音楽への  
関心  
・音楽経験を生活に生かし、生活を  
明るく潤いのあるものにする態度  
・情操  
など

下線部は、「共通事項」と関連する箇所

# 小・中・高を通じ、音楽科、芸術科（音楽）において育成すべき資質・能力の整理（検討のたまき台）

個別の知識や技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力、人間性等
中学校 音楽	<ul style="list-style-type: none"><li>音楽を形づくっている要素及びそれらに関する用語や記号などについて、楽曲における動きと関わらせて理解したり、楽曲の背景や楽曲の構造と、曲想との関わり及びその多様性について理解したりすることなど</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>音楽に対する感性を働かせ、音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらが生み出する特質や雰囲気を感受しながら、知識や技能を得たり活用して、音楽表現を創意工夫し、どのように表すかについて思いや意図をもつ、音楽表現の創造に関する能力</li><li>自分の思いや意図を生かして音楽表現をするために必要な技能</li></ul>

# 小・中・高を通じ、音楽科、芸術科（音楽）において育成すべき資質・能力の整理（検討のたまき台）

個別の知識や技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力、人間性等
高等学校 芸術 (音楽)	<ul style="list-style-type: none"><li>音楽を形づくっている要素及び音楽に関する用語や記号などについて、音楽表現上の動きと関わらせて理解したり、楽曲の文化的・歴史的背景や楽曲の構造と、曲想との関わり及びその多様性について理解したりすることなど</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>感性を働かせ、音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの動きを感じながら、知識や技能を得たり活用して、音楽表現を創意工夫し、楽曲の背景などと関わらせながら表現意図をもつ、音楽表現の創造に関する能力</li><li>生涯にわたり音楽を愛好する心情</li><li>我が国及び諸外国の音楽文化を尊重する態度</li><li>よりよい音環境を求める態度</li><li>音楽によって生活や社会にとつての価値を考えたりしたことに基づいて批評するなどして、芸術としての音楽や音楽文化に対する理解を深め、よさや美しさを味わう、音楽の意味や価値の創造に関する能力</li></ul>

下線部は、表現及び鑑賞に関する能力を育成する上で共通に必要となるもの

## 豊かな情操の育成を目指した小・中・高等学校修了時の児童生徒の姿 ～音楽科、芸術科（音楽）で育成すべき資質・能力～（検討のたてき台）

### 【芸術科（音楽Ⅲ）】

### 【芸術科（音楽Ⅱ）】

### 【芸術科（音楽Ⅰ）】※

○豊かな感性や生涯にわたり音楽を愛好する心情が育っている。

○創造的な表現と鑑賞の能力を働かせて、豊かに表現したり鑑賞したりすることができます。

例えば…・音楽を形づくつける要素を知覚・感受し、根拠をもって音楽表現を生み出したり、音楽を聴いてそのよさや価値などについて批評するなどして味わって聴いたりすることができます。

・他者と協働して新たな価値を創造することができる。

○生活や社会の中の音や音樂の働きや音樂文化について、深く理解し尊重するとともに、音樂文化の担い手としての意識をもつている。

例えば…・生活や社会との関わりにおいて、TPOに応じた心地よい音環境を求める意識をもつている。

・音楽が、伝統や文化などの影響を受けて生まれてきた意味や価値を理解することができる。

・音楽活動を通して、多様な音樂文化についての意味や価値を理解することができます。

高等学校

### 【音楽科】

○豊かな感性や音樂を愛好する心情が育っている。

○音樂活動の基礎的な能力を働かせて、豊かに表現したり鑑賞したりすることができます。

例えば…・音楽を形づくつける要素の知覚と感受の関連を図り、音樂のよさや美しさなどについて自分の考えをもちながら、音樂表現を工夫したり、自分で音楽について語りたいすることができる。

・他者と音や言葉による交流を通して考え方を広げたり深めたりして、自分にとっての新たな価値を創造することができる。

○生活の中の音や音樂の働きや、音樂文化について理解し、尊重している。

例えば…・身の回りの音や音樂に関心をもち、音環境に対する意識をもつている。

・我が国や郷土の伝統音樂を含む、世界の様々な音樂それぞれがもつよさや美しさを味わい、音樂の多様性を理解することができます。

・我が国で長く歌い継がれている歌曲のよさを感じ取りながら歌うことができる。

中学校

### 【音楽科】

○感性や音樂を愛好する心情が育っている。

○音樂活動の基礎的な能力を働かせて、表現したり鑑賞したりすることができます。

例えば…・音楽を形づくつける要素を聴き取り感じ取りながら、こう表したいという思いや意図をもつて表現したり、楽曲や演奏のよさを考え、味わつて聴いたりすることができます。

・音や言葉によるコミュニケーションを図りながら、自分にとって価値のある創造的な音樂活動をすることができる。

○生活の中の音や音樂や、我が国や諸外国の音樂に親しみ、それらを大切にしている。

例えば…・生活の中の様々な音や音樂の特徴に気付くことができる。

・我が国や郷土の音楽及び諸外国の音楽など、いろいろな種類の音樂に耳をもち、そのよさを味わうことができる。

・世代や地域を超えて親しまれている日本のうたに親しみ、曲にふさわしい歌い方で歌うことができる。

小学校

（教育課程部会幼児教育部会において、芸術ワーキンググループでの議論を踏まえ、幼稚期に育みたい資質・能力、幼稚期の終わりまでに育つてほしい姿の明確化について審議）

・身近な事象に好奇心や探究心を持つて思いを巡らしながら積極的に関わる、物の性質や仕組み等に気付いたり、予想したり、工夫したりなどして多様な関わりを楽しむようになるとともに、友達と考え方を思い合わせるなどして、新しい考え方を生み出す喜びを感じながら、よりよいものにするようになる。

・生活の中で心動かす出来事に触れ、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりして、表現する意欲が高まるようになる。

幼児教育

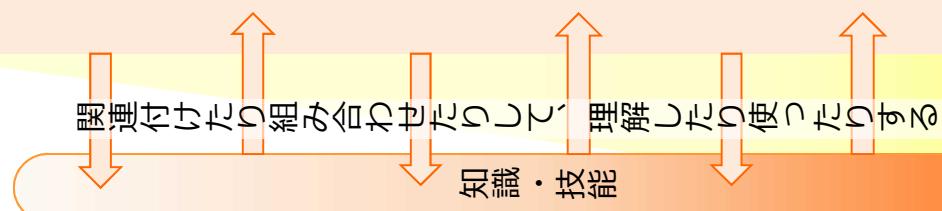
# 音楽科、芸術科（音楽）における学習のプロセス（イメージ図）

平成28年2月23日会  
教芸課一基シングルー2  
(第5回)資料3-2

表現領域の学習  
(主体的・創造的に音楽表現する)

音や音楽との出会い

鑑賞領域の学習  
(主観的・創造的に鑑賞する)



学んないこと、学んだことの意味や価値、社会や生活の中の音や音楽の働きなどの自覚

豊かな情操の育成

音楽に対する感性

# 小・中・高を通じ、図画工作科、美術科、芸術科（美術、工芸）において、育成すべき資質・能力の整理（検討のたたき台）

平成28年2月23日  
会議課 程部 会  
教芸術ワークショップグループ  
(第5回) 資料2-1(修正)

## 個別の知識や技能

## 思考力・判断力・表現力等

## 学びに向かう力、人間性等

- ・形や色などの造形的な特徴や、材料や用具の特徴、作品のことなどについての、造形的な創造活動を通して理解。
- ・感性や想像力、手や体全体の感覚などを働かせたり経験を生かしたりしながら、形や色などの造形的な特徴を捉えるとともに自分のイメージをもつなどして、表したいことを思い付いたり、形や色、用途などを考えたりすること。
- ・感性や想像力、手や体全体の感覚などを働かせたり経験を生かすとともに自分のイメージをもつなどして、表したいことに合わせて材料や用具を使い、表し方を工夫するなどの創造的な技能。

- ・感性や想像力、手や体全体の感覚などを働かせながら、形や色などの造形的な特徴を捉えるとともに自分のイメージをもつなどして、表したいことを思い付いたり、形や色、用途などを考えたりすること。
- ・つくりだす喜び・造形への関心・意欲・態度・感性・形や色などによるコミュニケーションを通じて、生活や社会と主体的に関わる態度・情操など
- など

# 小・中・高を通じ、图画工作科、美術科、芸術科（美術、工芸）において、育成すべき資質・能力の整理（検討のたたき台）

個別の知識や技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力、人間性等
<p>中学校 美術</p> <ul style="list-style-type: none"><li>形や色彩、材料、光などの性質や、それらがもたらす感情などの特徴について、創造活動における造形的な視点として理解したり、美術作品、文化遺産などについて造形的な視点から作風などを理解したりすること。</li><li>感性や造形感覚を働かせ、形や色彩などの表し方のコツをつかむことや、意図や自己の捉えたイメージなどに応じて形や色彩、材料、用具の特性を生かした新たな表現方法の工夫すること、制作の順序などを総合的に考えながら見通しをもつて表すなどの創造的な技能。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>感性や想像力を働かせ、造形的な特徴などからイメージを捉えるなどして、豊かに発想し、よさや美しさなどを考え、心豊かで創造的な表現の構想を練ること。</li><li>など</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>創造活動の喜び</li><li>・美術への関心・意欲・態度</li><li>・感性</li><li>・形や色彩などによるコミュニケーションを通じて、生活や社会の中の美術と主体的に関わる態度</li><li>・生涯にわたり美術を愛好する心情</li><li>・美術文化の継承と創造への関心</li><li>・情操</li></ul>

下線部は、「共通事項」と関連する箇所

# 小・中・高を通じ、图画工作科、美术科、芸術科（美术、工芸）において、育成すべき資質・能力の整理（検討のたたき台）

個別の知識や技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力、人間性等
高等学校 芸術 (美术)	<ul style="list-style-type: none"><li>造形要素の動きなどについて、創造活動における造形的な視点として深く理解したり、美術作品、文化遺産などについて造形的な視点から表現の特質などを理解したこと。</li><li>感性や想像力を豊かに働かせ、<u>造形的な特徴などからイメージを捉える</u>などして、主題を生成し、創造的な表現の構想を練ること。</li><li>感性や想像力を豊かに働かせ、<u>造形的な特徴などをからイメージを捉える</u>などして、芸術としての美術や、生活や社会の中の美術の動き、美術文化を幅広く理解し、そのよさや美しさを創造的に味わうこと。</li><li>感性や造形感覚などを豊かに働かせ、<u>意図や自己の捉えたイメージなどに応じて造形要素や材料、用具の特性を生かしたり、表現方法を工夫したりして表すなどの創造的な技能。</u></li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>美術への関心・意欲・態度</li><li>感性</li><li>形や色彩などによるコミュニケーションを通して、生活や社会の中の美術と主体的に関わる態度</li><li>生涯にわたり美術を愛好する心情</li><li>美術文化を尊重する態度</li><li>情操</li></ul>

下線部は、表現及び鑑賞に関する能力を育成する上で共通に必要となるもの

# 小・中・高を通じ、图画工作科、美術科、芸術科（美術、工芸）において、育成すべき資質・能力の整理（検討のたたき台）

個別の知識や技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力、人間性等
高等学校 芸術 (工芸)	<ul style="list-style-type: none"><li>造形要素の動きなどについて、創造活動における造形的な視点として深く理解したり、工芸作品、伝統工芸などについて造形的な視点から工芸の特質などを理解したりすること。</li><li>感性や想像力を豊かに働かせ、造形的イメージを捉えるなどして、心豊かな発想をし、用と美、よさや美しさなどを考え方制作の構想を練ること。</li><li>創造的思考</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>工芸への関心・意欲・態度</li><li>感性</li><li>形や色彩などによるコミュニケーションを通じて、生活や社会の中の工芸と主体的にかかわる態度</li><li>生涯にわたり工芸を愛好する心情</li><li>工芸の伝統と文化を尊重する態度</li><li>情操</li></ul>

下線部は、表現及び鑑賞に関する能力を育成する上で共通に必要となるもの

# 豊かな情操の育成を目指した小・中・高等学校修了時の児童生徒の姿 ～図画工作科、美術科、芸術科（美術、工芸）で育成すべき資質・能力へ（検討のたたき台）

## 【芸術科（美術Ⅲ）】

## 【芸術科（美術Ⅱ）】

### 【芸術科（美術Ⅰ）】※

○豊かな感性や生涯にわたり美術を愛好する心情が育っている。

○創造的な表現と鑑賞の能力を働かせて、豊かに表現したり、鑑賞したりすることができる。

高等学校

※1を付した  
科目のうち、  
1科目を  
共通必履修  
科目とする。

### 【芸術科（工芸Ⅲ）】

### 【芸術科（工芸Ⅱ）】

### 【芸術科（工芸Ⅰ）】※

○豊かな感性や生涯にわたり工芸を愛好する心情が育っている。

○創造的な表現と鑑賞の能力を働かせて、豊かに表現したり、鑑賞したりすることができる。

例えれば…  
・造形要素の動きなどを考え、自己の思いや使う人の願いなどを考えて心豊かに表現したり、工芸作品などのよさや美しさなどを感じ取り、理解を深めたりすることができます。

・形や色彩などの造形的な視点を明確にし、対象を分析的に捉えたり、根拠をもつて批評したりするなどして工芸作品などに対する理解を深めることができます。

・形や色彩などのコミュニケーションを通して、創造的な新たな価値をつくりだすことができます。

○生活や社会の中の工芸の働きや、工芸の伝統と文化について、深く理解し、工芸の伝統と文化化を尊重している。  
例えれば…  
・生活や社会を明るく心豊かにする工芸の動きについて理解することができます。

・伝統的かつ創造的な日本の工芸の伝統と文化について理解することができます。

・日本の工芸の伝統と文化についての理解を深め、国際社会に生きる日本人としての自覚を高めることができます。

### 【美術科】

○豊かな感性や美術を愛好する心情が育っている。

○美術の基礎的な能力を相互に働かせて、豊かに表現したり鑑賞したりすることができる。

例えれば…  
・形や色彩などのもつ性質や感情などを感じ取り味わうことができる。

・対象を形や色彩などの視点をもつて批評したりして作品などの見方や感じ方を深めることができます。

○生活の中の美術の働きや、美術文化について理解し、美術文化の継承と創造への関心を高めている。  
例えれば…  
・日本及ひ諸外国の美術文化について理解することができます。

・我が国の美術文化について理解するとともに、諸外国の美術文化との相違と共通性に気付き、美術を通して国際理解を深めることができます。

### 【図画工作科】

○感性を働かせながら、つくりだす喜びを味わっている。

○造形的な創造活動の基礎的な能力を相互に働かせて、表現したり鑑賞したりすることができる。

例えれば…  
・形や色などの特徴を捉えながら、造形的な活動を思い付いたり、表したいことを絵や立体、工作に表現したりすることができます。

・自分たちの作品や美術作品などから、表現の意図や特徴などを捉え、よさや美しさを感じ取ることができます。

・形や色などによるコミュニケーションを通して、新しい意味や価値をつくりだすことができます。

○生活の中の造形や、我が国や諸外国の美術作品に親しみ、それらを大切にしている。  
例えれば…  
・我が国の美術作品、暮らしの中の作品などを鑑賞して、よさや美しさを感じ取り、それらを大切にしている。

（教育課程部会幼児教育部会において、芸術ワーキンググループでの議論を踏まえ、幼児期に育みたい資質・能力、幼児期の終わりまでに育つてほしい姿の明確化について審議）

・身近な事象に好奇心や探究心を持つて思いを巡らしながら積極的に関わったり、物の性質や仕組み等に気付いたり、予想したり、工夫したりなどして多様な関わりを楽しむようになるとともに、友達と考え方を思い合わせるなどして、新しい考え方を生み出す喜びを感じながら、よりよいものにするようになる。

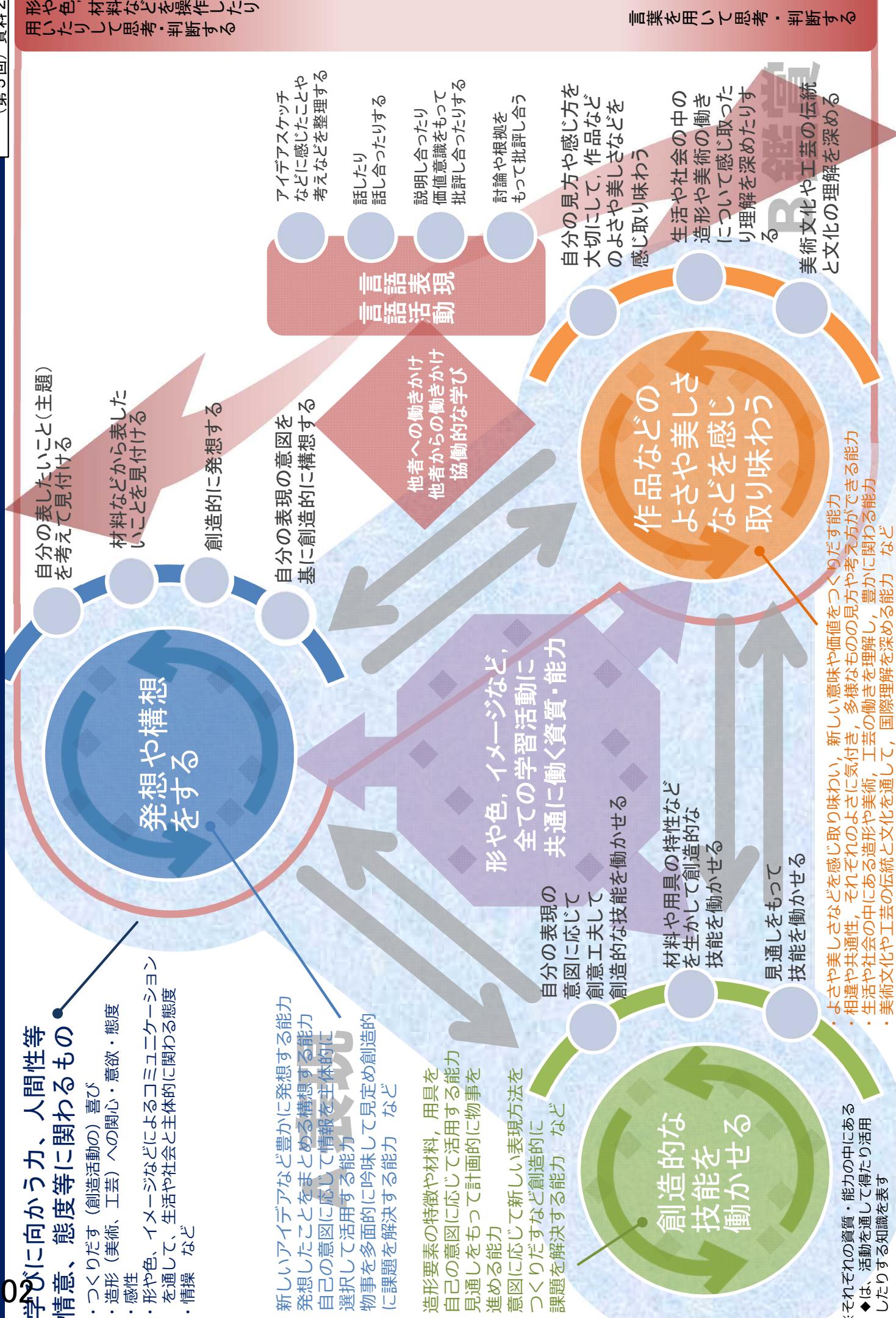
・生活の中で心動かす出来事に触れ、感じたことや考えたことを自分で表現したりして、表現する意欲が高まるようになる。

中学校

小学校

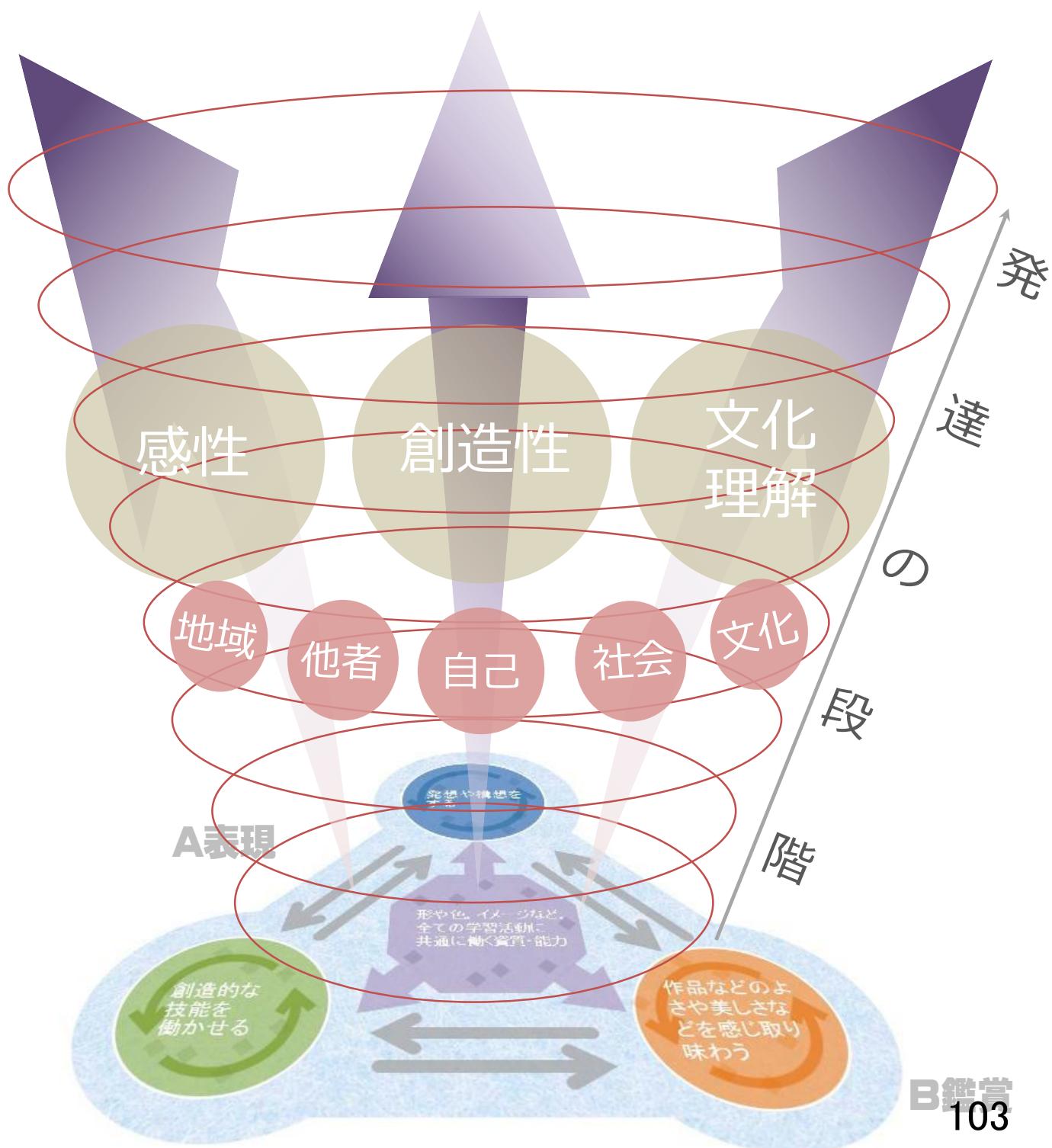
幼年教育

# 国画工作科、美術科、芸術科（美術、工芸）における学習のプロセス（イメージ案）



形や色、イメージなどの視点をもち、  
生活や社会と豊かに関わる資質・能力

## 豊かな情操



# 芸術科（書道）において育成すべき資質・能力の整理（検討のたたき台）

104

平成28年2月23日  
会議課 程部会  
芸術ワークショップグループ  
(第5回) 資料1-1(修正)

## 個別の知識や技能

### 思考力・判断力・表現力等

### 学びに向かう力、人間性等

- ・書を構成する要素とその表現効果の視点から、作品を深く理解したり、生活や社会の中での文字や書の働き、書の伝統と文化について書の特質に即して理解したりすることなど
- ・感性を働かせて、意図に基づいた創造的な表現を構想し工夫するために、用具・用材の特徴を理解し、書の伝統に基づいた効果的な書表現の技能を身に付けることなど

- ・書のよさや美しさを感受し、書を構成する要素とその関連から生まれる動きを捉えるなどして、感性を働かせながら、自らの思いや意図に基づいて作品を構想し、表現を工夫することなど

書道  
高等学校

- ・書への関心・意欲・態度
- ・感性
- ・文字や書の生活や社会の中での動きや効用を考え、主体的に関わる態度
- ・生涯にわたり書を愛好する心情
- ・書の伝統と文化を尊重する態度
- ・情操
- ・創造的に味わつたり、など

下線部は、表現及び鑑賞に関する能力を育成する上で共通に必要となるもの

# 豊かな情操の育成を目指した小・中・高等学校修了時の児童生徒の姿 ～芸術科（書道）で育成すべき資質・能力へ（検討のたたき台）

平成28年2月23日会  
議課題部会  
芸術ワーキンググループ（修正）  
(第6回)資料2

## 【芸術科（書道Ⅲ）】 【芸術科（書道Ⅱ）】

【芸術科（書道Ⅰ）】※  
○豊かな感性や生涯にわたり書を愛好する心情が育っている。  
○創造的な表現と鑑賞の能力を動かさせて、豊かに表現したりすることができる。  
例えれば…・確かな書写能力を基盤としながら、多彩な美へと発展させ、豊かに表現することができます。  
・書表現の諸要素を感受し、自らの意図に基づいて構想し工夫して表現したり、作品のよさや美しさを感じ取り、理解を深めたりすることができます。  
・書の表現効果を味わい、そのよさや価値などについて根拠をもつて批評し合うなどして、書に対する理解を深めることができます。  
・書の活動を通して、書に対する見方や考え方を広げたり、新たな価値を見出したりすることができます。  
○生活や社会の中での文字や書の動きや、書の伝統と文化について深く理解し、書の伝統と文化を尊重している。  
例えれば…・生活や社会における文字や書の功用を理解することができます。  
・書の伝統と文化の広がりやそれが生まれてきた歴史的背景について理解することができます。  
・日本の書の美に対する感性や価値を理解することができます。

※「」を付した科目のうち、1科目を1科目を共通必履修科目とする。

【国語科（必履修科目）】  
「現代の国語」(仮称)  
・実社会・実生活に生かす内容（履歴書等の社会的な文書や通信文などにおいて文字を効果的に書くことなど）  
「言語文化」(仮称)  
・文字文化への関心を深める内容（古典の作品と書体等とのかかわりに関心をもつことなど）

高等学校

中学校  
小学校

小学校

【国語科（書道）】  
○文字を正しく整えて速く書くことができる。  
○書写能力を日常生活や学習活動に生かすとともに、手書きの意義や文字の由来について理解することができます。

例えれば…  
・日常生活や学習活動において、目的や場面に応じて文字を書くことができます。  
・社会生活について関心をもち、その多様性や表現の豊かさについて理解することができます。

【国語科（書写）】  
○文字を正しく整えて書くことができる。  
○書写能力を日常生活や学習活動に生かすとともに、手書きの意義や文字の由来について理解することができます。

例えれば…  
・文字を構成する点画の形状や相互関係、文字の形や配列に注意しながら書くことができます。  
・日常生活や学習活動において、目的や場面に応じて文字を書くことができます。  
・手書きすることの意義、漢字や仮名の由来や特質について理解することができます。

(教育課程部会幼児教育部会において、芸術ワーキンググループでの議論を踏まえ、幼児期の終わりまでに育つほしい姿の明確化について審議)  
・身近な事象に好奇心や探究心を持つて思いを巡しながら積極的に関わるなどして多様な関わりを楽しむようになるとともに、友達と考え方を思い合わせるなどして、新しい考えを生み出しあうなどしてよいものにするようになる。  
・生活や遊びの中で、数々の絵本や物語などを親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付けるとともに、言葉による表現を楽しむようになる。  
・言葉を通して先生や友達と心を通わせ、絵本や物語などを親しみながら、豊かな言葉や表現を楽しんだりして、表現する意欲が高まるようになる。

## 芸術科（書道）における学習のプロセス（イメージ図）

平成28年2月23日  
会議課程部  
芸術ワーキンググループ  
(第5回) 資料1-2

### 表現領域

#### 書表現との出会い

### 鑑賞領域

- 用具・用材の特徴を理解する
- 書の伝統に基づいた効果的な表現の技能を身に付ける

書のよさや美しさを感受する

書を構成する要素とその表現効果の視点からの理解

書を構成する要素とその関連から生まれる働きを捉える

- 作品について深く理解する
- 生活や社会の中での文字や書の動き、書の伝統と文化について理解する

臨書活動・創作活動

知識・技能

知識

書表現を創造的に味わう  
作品の価値について考える  
文字や芸術としての書の伝統と  
文化について幅広く理解する

- 【言語活動】
- 作品のよさや美しさを考えたり  
説明し合ったりする
  - 根拠をもつて批評し合う

書に対する見方や考え方を  
広げる

自らの思いや意図に基づいて、  
表現を構想する

- 【言語活動】
- 書の構成要素を選んだり、  
する言葉を選んだりする
  - 書の構成要素を意図して書く  
表現の意

書を構成する要素を関連させながら、  
自らの構想に基づき、表現を工夫する

創作活動

豊かな情操、生活や社会における文字や書に豊かに関わる資質・能力の育成

書に対する感性

## 家庭、技術・家庭ワーキンググループにおける検討事項

1. 家庭、技術・家庭科を通じて育成すべき資質・能力について
  - ・家庭、技術・家庭科を学ぶ本質的な意義や他教科との関連性について
  - ・三つの柱に沿った育成すべき資質・能力の明確化について
    - i) 何を知っているか、何ができるか（個別の知識・技能）
    - ii) 知っていること・できることをどう使うか（思考力・判断力・表現力等）
    - iii) どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びに向かう力、人間性など）
  - ・幼稚園・小学校・中学校・高等学校を通じた家庭、技術・家庭科において育成すべき資質・能力の系統性について
  - ・家庭、技術・家庭科において育成すべき資質・能力と指導内容の系統性について
2. アクティブ・ラーニングの三つの視点（※）を踏まえた、資質・能力の育成のために重視すべき家庭、技術・家庭科の指導等の改善充実の在り方について
3. 資質・能力の育成のために重視すべき家庭、技術・家庭科の評価の在り方について
4. 必要な支援（特別支援教育の観点から必要な支援等を含む）、条件整備等について

※アクティブ・ラーニングの三つの視点（企画特別部会「論点整理」18ページ（及び論点整理補足資料スライド26）参照）

- i) 習得・活用・探究という学習プロセスの中で、問題発見・解決を念頭に置いた深い学びの過程が実現できているかどうか。
- ii) 他者との協働や外界との相互作用を通じて、自らの考えを広げ深める、対話的な学びの過程が実現できているかどうか。
- iii) 子供たちが見通しを持って粘り強く取り組み、自らの学習活動を振り返って次につなげる、主体的な学びの過程が実現できているかどうか。

# 家庭科、技術・家庭科（家庭分野）における教育のイメージ（たたき台）

## 【高等学校】共通教科

- ◇家庭科の見方や考え方を踏まえ、生活の中から問題を見出して課題を設定し、その解決を目指す実践的・体験的な学習活動を通して、以下の資質・能力を育成する。
  - 生活を科学的に理解し、自立した生活者に必要な知識・技能を習得する。
  - 生活の課題を解決するために、生活を科学的に探究し、生涯を見通して生活を創造する能力を育成する。
  - 様々な年代の人とコミュニケーションを図り、主体的に地域社会に参画し、と共に支え合う社会の実現に向けて家庭や地域の生活を創造しようとする実践的な態度を育成する。
  - 「ホームプロジェクト」や「学校家庭クラブ活動」等、主体的に取り組む問題解決的な学習を充実する。
  - ◎少子高齢化等の社会への変化や持続可能な社会の構築、食育の推進に對応し、子育て支援等の理解、高齢者の理解、生涯の生活設計、消費・環境に配慮したライフスタイルを確立するための意思決定、日本の生活文化の実践、日本の生活文化の継承・創造等に関する学習を充実する。

## 【中学校】

- ◇家庭分野の見方や考え方を踏まえ、生活の中から問題を見出して課題を設定し、その解決を目指す衣食住などに関する実践的・体験的な学習活動を通して、以下の資質・能力を育成する。
  - 家庭の機能について理解を深め、生活の自立に必要な基礎的・基本的な知識・技能を習得する。
  - 生活の中から問題を見出して課題を設定し、その解決を目指して身に付けた知識・技能を活用し、これから的生活を展望して生活を工夫し創造する能力を育成する。
  - 自分と家族、家庭生活と地域との関わりを考え、地域の人々と協働し、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を育成する。
  - 家庭や地域社会との連携を図り、「生活の課題と実践」等、主体的に取り組む問題解決的な学習を充実する。
  - ◎少子高齢化等の社会の変化や持続可能な社会の構築、食育の推進に対応し、家庭の機能の理解や、児童、高齢者との交流等、消費・環境に配慮したライフスタイルの確立の基礎、食事の役割や栄養・調理、日本の生活文化の継承等に関する学習を充実する。

## 【小学校】

- ◇家庭科の見方や考え方を踏まえ、生活の中から問題を見出して課題を設定し、その解決を目指す衣食住などに関する実践的・体験的な学習活動を通して、以下の資質・能力を育成する。
  - 日常生活に必要な基礎的・基本的な知識・技能を習得する。
  - 日常生活の中から問題を見出して課題を設定し、その解決を目指して身に付けた知識・技能を活用し、生活をよくしようと工夫する能力を育成する。
  - 家庭生活の大切さに気付き、家族や地域の人々との関わりを考え、家族の一員として、生活をよくしようとする実践的な態度を育成する。
  - 家庭や地域との連携を図り、主体的に取り組む問題解決的な学習を充実する。
  - ◎少子高齢化等の社会の変化や持続可能な社会の構築、食育の推進に対応し、家庭生活と家族の大切さ等、消費・環境に配慮した生活の仕方、食事の役割や栄養・調理の基礎、日本の生活文化の大切さに気付く学習を充実する。

## 【小学校(低・中学年)】

- ◇基本的な生活習慣や生活技能、身近な人々との接し方(家族や地域の様々な人々)、成長への喜び・成長を支えてくれた人々への感謝等(生活科)
  - 健康によい生活についての理解(健康に過ごすための明るさの調節や換気などの生活環境)、体の発育・発達についての理解(体をよりよく発育・発達させるための調和のとれた食事)(体育科)
  - 日常の生活や学習への適応及び健康・安全(基本的な生活習慣の形成、食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成等)(特別活動)
  - 節度・節制(基本的な生活習慣、家庭生活の充実等(道徳))等

## 【小学校(高・中学年)】

- ◇基本的な生活習慣や生活技能、身近な人々との接し方(家族や地域の様々な人々)、成長への喜び・成長を支えてくれた人々への感謝等(生活科)
  - 健康によい生活についての理解(健康に過ごすための明るさの調節や換気などの生活環境)、体の発育・発達についての理解(体をよりよく発育・発達させるための調和のとれた食事)(体育科)
  - 日常の生活や学習への適応及び健康・安全(基本的な生活習慣の形成、食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成等)(特別活動)
  - 節度・節制(基本的な生活習慣、家庭生活の充実等(道徳))等

## 【幼稚園】

- 幼稚園生活の中で満足感や充実感を持つて自分のやりたいことに向かって心と体を十分に動かせながら取り組み、見通しを持って自ら健康で安全な生活を作り出していくようになる。
- 家族を大切にしようとする気持ちを持つつ、いろいろな人と関わしながら、自分が役に立つ喜びを感じ、地域に一層親しみを持つようになる。等

# 家庭科、技術・家庭科（家庭分野）において育成すべき資質・能力の整理（たたき台）

平成28年4月13日教育課程部会  
家庭、技術・家庭ワーキンググループ  
資料8

		個別の知識や技能 (何を知っているか、何ができるか)	思考力・判断力・表現力等 (知っていること・できることをどう使うか)	学びに向かう力、人間性等 (どのように社会・世界と関わるか)
家庭 高等学校 (共通教科)	自立した生活者に必要な知識・技能	生活の課題を解決するために、生涯を見通して生活を創造する能力	・家族・家庭、乳幼児の子育て支援等や高齢者の生活支援等に関する技術についての知識・理解、技能 ・生涯の生活設計に関する知識・理解 ・各ライフステージに対応した衣食住に関する技術についての知識・理解、技能 ・生活における経済の計画、消費生活や環境についての知識・理解、技能	・男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造しようとする態度 ・主体的に地域社会と関わり、参画しようとする態度 ・生活を楽しみ味わい、豊かさを創造しようとする態度 ・日本の生活文化を継承・創造しようとする態度
技術・家庭 中学校	生活の自立に必要な基礎的・基本的な知識・技能	生活の中から問題を見出して課題を設定し、解決するためには、これから的生活を展望して生活を工夫し創造する能力	・家庭の基本的な機能に関する知識・理解 ・家庭、児童、高齢者に関する技術についての知識・理解、技能 ・生活の自立に必要な衣食住に関する技術についての知識・理解、技能 ・消費生活や環境に配慮したライフスタイルを確立するための基礎となる技術についての知識・理解、技能	・家庭生活を支える一員として生活をよくしようとする態度 ・地域の人々と関わり、協働しようとする態度 ・生活を楽しみ、豊かさを味わおうとする態度 ・日本の生活文化を継承しようとする態度
家庭 小学校	日常生活に必要な基礎的・基本的な知識・技能	生活の中から問題を見出して課題を設定し、解決するために、生活をよくしようとすると実践的な態度	・家庭生活に関する知識・理解 ・生活の自立の基礎として必要な衣食住に関する知識・理解、技能 ・消費生活や環境に関する知識・理解、技能	・家庭生活を大切にする心情 ・家族や地域の人々と関わり、協力しようとする態度 ・生活を楽しもうとする態度 ・日本の生活文化を大切にしようとする態度

## 家庭科、技術・家庭科(家庭分野)における思考力・判断力、表現力等の育成イメージ（たたき台）

### ①生活の中から問題を見出し、解決すべき課題を設定する力

- ・家族・家庭や社会における生活の中から問題を見出し、課題を設定できる。
- ・家族・家庭や地域における生活の中から問題を見出し、課題を設定できる。
- ・日常生活の中から問題を見出し、課題を設定できる。

### ②生活課題について多角的に捉え、解決策を構想し、計画する力

- ・生活課題について他の生活事象と関連付け、生涯を見通して多角的に捉え、解決策を構想し、計画できる。
- ・生活課題について他の生活事象と関連付け、これから的生活を展望して多角的に捉え、解決策を構想し、計画できる。
- ・生活課題について自分の生活経験と関連付け、多角的に捉え、解決策を構想し、計画できる。

### ③実習や観察・実験の結果等について、考察したことを説明したり、発表したりする力

- ・実習や観察・実験、調査、交流活動の結果等について、考察したことを科学的な根拠や理由を明確にして論理的に説明したり、発表したりできる。
- ・実習や観察・実験、調査、交流活動の結果等について、考察したことを根拠や理由を明確にして論理的に説明したり、発表したりできる。
- ・実習や観察・実験、調査、交流活動の結果等について、考察したことを根拠や理由を明確にしてわかりやすく説明したり、発表したりできる。

### ④他者と意見交流し、計画・実践等について評価・改善する力

- ・他者の立場を考え、多様な意見や価値観を取り入れ、計画・実践等について評価・改善できる。
- ・他者の意見を聞き、自分の意見との相違点や共通点を踏まえ、計画・実践等について評価・改善できる。
- ・他者の思いや考えを聞いたり、自分の考えをわかりやすく伝えたりして計画・実践等について評価・改善できる。

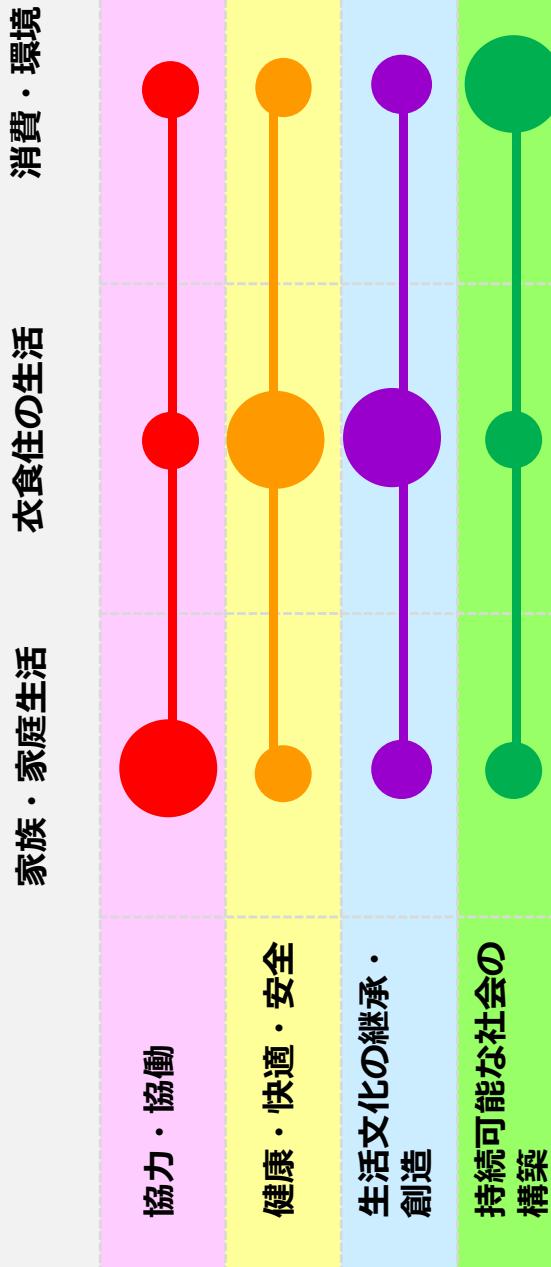
※ 上　　： 主に高等学校段階  
中央　　： 主に中学校段階  
下　　： 主に小学校段階

※①～④のタイトルにも、各学校段階にも、家庭科であることがわかる文言を入れる。

※①と②の重なりを考慮、学習プロセスとの整合性を図る。

- 家族や家庭、衣食住、消費や環境などに係わる生活事象について、協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の継承・創造、持続可能な社会の構築等の視点から解決すべき問題を捉え、よりよい生活の実現に向けて考察すること。

### 自立し共に生きる生活の創造



※主として捉える見方・考え方については、大きい丸で示している。  
取上げる内容や題材構成等により、どのような見方・考え方を重視するかは異なる。  
また、学校段階によつて扱うレベルも異なる。

# 家庭科、技術・家庭（家庭分野）の学習プロセス(たたき台)

生活の課題発見	解決方法の検討と計画	課題解決に向けた実践活動
生活を見つめる 生活を 見つめる	課題を 設定する 生活に 関わる科 学的理 解に基づ いた解 決方法を 立案・検 討し、 決定する	解決の見通 しをもち、 計画を立て る 生活に 関わる科 学的知 識・技 能を活 用して、 調理・製 作等の実 習や、調 査、交 流活動な どを行 う



主な学習過程及び  
重視する力

（目指す資質・能力と学習評価の場面の例）

知識・理解力  
技能



- （小）家族の一員として、生活をよりよくしようとする実践的な態度
- （中）地域人々と協働し、生活を工夫し創造しようとするとする実践的な態度
- （高）共に支え合う社会の実現に向けて、家庭や地域の生活を創造しようとする実践的な態度
- 生活を楽しみ、味わい、豊かさを創造しようととする態度
- 日本の生活文化を大切にし、継承・創造しようととする態度

※上記に示す各プロセスは例示であり、上例に限定されるものではないこと

# 小学校 家庭科の改訂の方向性（たたき台案）

## 現行学習指導要領

## 検討事項

### 家庭科の見方や考え方

家族や家庭、衣食住、消費や環境などに係わる生活事象について、協力・協働、健康・快適・安全、文化の継承・創造、持続可能な社会を構築等の視点から解決すべき問題を捉え、よりよい生活の実現に向けて考察すること

### 「論点整理」における指摘事項

### B 日常の食事と調理の基礎

- (1) 食事の役割
- (2) 栄養を考えた食事
- (3) 調理の基礎

・生活の科学的な理解  
・生活課題を解決する能力と実践的な態度の育成  
・小・中・高等学校教育を通じて育成すべき資質・能力の明確化  
・各学校段階を通じて、家庭や社会とのつながりを重視  
・少子高齢社会、資源や環境に配慮したライフスタイルの確立や持続可能な社会づくりのための力、他者と共に生じ自立して生活する力、生涯を見通して生活を設計し創造していく力の育成

### 関連する会議における提言等

- (1) 衣服の着用と手入れ
- (2) 快適な住まい方
- (3) 生活に役立つ物の製作

○少子化社会対策大綱(H27.3.20閣議決定)  
妊娠や家庭・家族の役割については、発達の段階に応じた適切な教育の推進を図る  
○高齢社会対策大綱(H24.9.7閣議決定)  
高齢社会に関する課題や高齢者に対する理解を深める  
○第3次男女共同参画基本計画(H22.12.17閣議決定)  
家庭を築くことの重要性などについての指導の充実を図る  
○教育推進基本計画(H23.3.31教育推進会議決定)  
学校教育全体を通して教育を組織的・計画的に推進する  
○和食の無形文化遺産登録(H25.12.4)  
日本の伝統的な食文化  
○消費者教育の推進に関する法律(H24.8.22)  
学校における消費者教育の推進  
○環境基本計画(H24.4.27閣議決定)  
学校や社会におけるESDの理念に基づいた環境教育等の教育を推進する

### D 身近な消費生活と環境

- (1) 物や金銭の使い方と買物
- (2) 環境に配慮した生活の工夫

目指す資質・能力等	今後の方針性(案)	内 容
<ul style="list-style-type: none"> <li>○日常生活に必要な基礎的・基本的な知識・技能</li> <li>・家庭・家庭生活に関する知識・理解</li> <li>・衣食住に関する知識・理解、技能</li> <li>・消費生活や環境に配慮した生活の仕方に関する知識・理解、技能</li> <li>○生活をよくしようと工夫する能力</li> </ul>	<p>小・中・高の系統性、既存の内容の関連性、家庭科における見方や考え方を踏まえた内容の改善</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 家族・家庭生活に関する内容           <ul style="list-style-type: none"> <li>○少子高齢化に関する内容の改善               <ul style="list-style-type: none"> <li>・家族や地域の人々との関わり(異世代)、「家庭の仕事」への協力等、家庭生活と家族の大切さの理解に関する内容の充実(実践的な学習は他教科等と連携)</li> <li>○家庭や地域との連携を図り、主体的に取り組む問題解決的な学習を充実</li> </ul> </li> <li>● 衣食住の生活に関する内容               <ul style="list-style-type: none"> <li>○衣食住の生活に関する内容の改善                   <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活の自立の基礎を培うための基礎的な技能の確実な習得を図る学習の充実</li> <li>・健康で安全な食生活のための食育の充実</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul> </li> </ul>

# 中学校 技術・家庭科（家庭分野）の改訂の方向性（たたき台案）

平成28年4月13日教育課程部会  
家庭、技術・家庭ワーキンググループ  
資料12-2

## 中学校 技術・家庭科（家庭分野）の改訂の方向性（たたき台案）

### 現行学習指導要領

### 検討事項

#### 家庭科の見方や考え方

家族や家庭、衣食住、消費や環境などに係わる生活事象について、協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の継承・創造、持続可能な社会を構築等の視点から解すべき問題を捉え、よりよい生活の実現に向けて考査すること

#### 「論点整理」における指摘事項

・生活の科学的な理解  
・生活課題を解決する能力と実践的な態度の育成  
・小・中・高等学校教育を通じて育成すべき資質・能力の明確化  
・各学校段階を通じて、家庭や社会とのつながりを重視  
・少子高齢社会、資源や環境に配慮したライフスタイルの確立や持続可能な社会づくりのための力、他者と共生し自立して生活する力、生涯を見通して生活を設計し創造していく力の育成

#### 関連する会議における提言等

○少子化社会対策大綱(H27. 3. 20閣議決定)  
妊娠や家庭・家族の役割については、発達の段階に応じた適切な教育の推進を図る  
○高齢社会対策大綱(H24. 9. 7閣議決定)  
高齢社会に関する課題や高齢者に対する理解を深める  
○第3次男女共同参画基本計画(H22. 12. 17閣議決定)  
家庭を築くことの重要性などについての指導の充実を図る  
○教育推進基本計画(H23. 3. 31教育推進会議決定)  
学校教育全体を通して教育を組織的・計画的に推進する  
○和食の無形文化遺産登録(H25. 12. 4)  
日本の伝統的な食文化

○消費者教育の推進に関する法律(H24. 8. 22)  
学校における消費者教育の推進  
○環境基本計画(H24. 4. 27閣議決定)  
学校や社会におけるESDの理念に基づいた環境教育等の教育を推進する  
○地域の人々と協働し、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度  
自分と家族、家庭生活と地域との関わりを考え、地域の人々と協働し、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度

#### 今後の方針性(案)

#### 目標・資質・能力等

内 容	今後の方針性(案)
<ul style="list-style-type: none"> <li>○生活の自立に必要な基礎的・基本的な知識・技能</li> <li>・家庭の基本的な機能に関する知識・理解</li> <li>・家族、幼児、高齢者に関する技術についての知識・理解、技能</li> <li>・生活の自立に必要な衣食住に関する技術についての知識・理解、技能</li> <li>・消費生活や環境に配慮したライフスタイルを確立するための基礎となる技術についての知識・理解、技能</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 家族・家庭生活に関する内容</li> <li>○少子高齢化に関する内容の改善           <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭の機能の理解や幼児、高齢者との交流等、家族や地域の人々との関わり、家庭生活と地域との関わりに関する内容の充実（実践的な学習は教科等と連携）</li> </ul> </li> <li>○家庭や地域社会との連携を図り、「生活の課題と実践」等、主体的に取り組む問題解決的な学習を一層充実</li> </ul>

内 容	今後の方針性(案)
<ul style="list-style-type: none"> <li>小・中・高の系統性、既存の内容の関連性、家庭分野における見方や考え方を踏まえた内容の改善</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 衣食住の生活に関する内容</li> <li>○衣食住の生活に関する内容の改善           <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活の自立を促すための基礎的な技能の確実な習得を図る学習の充実</li> <li>・健康で安全な食生活のための食育の充実</li> <li>・日本の生活文化の継承に係る学習の充実</li> </ul> </li> <li>○生活の科学的な理解の重視</li> <li>○家庭や地域社会との連携を図り、「生活の課題と実践」等、主体的に取り組む問題解決的な学習を一層充実</li> </ul>

内 容	今後の方針性(案)
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 身近な消費生活と環境に関する内容</li> <li>○持続可能な社会の構築に関する内容の改善           <ul style="list-style-type: none"> <li>・消費・環境に配慮したライフスタイルの基礎となる内容の充実</li> <li>（実践的な学習は教科等と連携）</li> </ul> </li> <li>○家庭や地域社会との連携を図り、「生活の課題と実践」等、主体的に取り組む問題解決的な学習を一層充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 身近な消費生活と環境に関する内容</li> <li>○持続可能な社会の構築に関する内容の改善           <ul style="list-style-type: none"> <li>・消費・環境に配慮したライフスタイルの基礎となる内容の充実</li> <li>（実践的な学習は教科等と連携）</li> </ul> </li> <li>○家庭や地域社会との連携を図り、「生活の課題と実践」等、主体的に取り組む問題解決的な学習を一層充実</li> </ul>

# 高等学校 家庭科（共通教科）の改訂の方向性（たたき台案）

## 今後の方針性(案)

平成28年4月13日教育課程部会  
家庭・技術・家庭ワーキンググループ  
資料12-3

### 現行学習指導要領

#### 検討事項

##### 家庭科の見方や考え方

家族や家庭、衣食住、消費や環境などに係わる生活事象について、協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の継承・創造、持続可能な社会を構築等の視点から解決すべき問題を捉え、よりよい生活の実現に向けて考察すること

##### 「論点整理」における指摘事項

- ・生活の科学的な理解
- ・生活課題を解決する能力と実践的な態度の育成
- ・小・中・高等学校教育を通じて育成すべき資質・能力の明確化
- ・各学校段階を通じて、家庭や社会とのつながりを重視
- ・少子高齢社会、資源や環境に配慮したライフスタイルの確立や持続可能な社会づくりのための力、他者と共に生し自立して生活する力、生涯を見通して生活を設計し創造していく力の育成

##### 関連する会議における提言等

- 少子化社会対策大綱(H27.3.20閣議決定)
- 妊娠や家庭・家族の役割については、発達の段階に応じた適切な教育の推進を図る
- 高齢社会対策大綱(H24.9.7閣議決定)
- 第3次男女共同参画基本計画(H22.12.17閣議決定) 家庭を築くことの重要性などについての指導の充実を図る
- 食育推進基本計画(H23.3.31食育推進会議決定)
- 学校教育全体系を通して食育を組織的・計画的に推進する
- 和食の無形文化遺産登録(H25.12.4)

##### 生活デザイン(4単位)

- (1) 人の一生と家族・家庭及び福祉
- (2) 消費や環境に配慮したライフスタイルの確立
- (3) 食生活の設計と創造
- (4) 衣生活の設計と創造
- (5) 住生活の設計と創造
- (6) ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動

##### 目指す資質・能力等

- 自立した生活者に必要な知識・技能

・家族・家庭、乳幼児の子育て支援・生涯の生活支援等や高齢者の生活支援等についての知識・理解、技能

・生涯の生活設計に関する知識・理解

・各ライフステージに対応した衣食住に関する技術についての知識・理解、技能

・生活における経済の計画、消費生活や環境に配慮したライフスタイルの確立に関する技術についての知識・理解、技能

##### 家庭総合(4単位)

- (1) 人の一生と家族・家庭
- (2) 子どもや高齢者とのかかわりと福祉
- (3) 生活における経済の計画と消費
- (4) 生活の科学と環境
- (5) 生涯の生活設計
- (6) ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動

##### 4単位科目

- | 必履修科目・単位 | 内 容   |
|----------|---|
| 2単位科目    | <ul style="list-style-type: none"> <li>○少子高齢化に関する内容の改善</li> <li>・親の役割と子育て支援(乳児期)、高齢者の理解と生活支援技術の基礎、生涯の生活を設計するための意思決定等、少子高齢社会を支える実践力を育成するための内容の充実</li> <li>○衣食住の生活に関する内容の改善</li> <li>・自立した生活者に必要な実践力を定着させる学習の充実(教育、食文化等の充実)</li> <li>○生活の科学的な理解の一層の重視</li> <li>・持続可能な社会の構築に関する内容の改善</li> <li>・消費・環境に配慮したライフスタイルを確立するための意思決定能力の育成を図る内容の充実</li> <li>○「ホームプロジェクト」や「学校家庭クラブ活動」等、主体的に取り組む問題解決的な学習を一層充実</li> </ul>  |
| 必履修科目・単位 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○少子高齢化に関する内容の改善</li> <li>・親の役割と子育て支援(乳児との触れ合い、子供とのコミュニケーション)に係る内容の充実(実習等)、高齢者の理解と生活支援技術、生涯の生活を設計するための意思決定等、少子高齢社会を支える実践力を育成するための内容の充実</li> <li>・乳児との触れ合い、子供とのコミュニケーション、高齢者の生活支援に係る内容の充実(実習等)</li> <li>○衣食住の生活に関する内容の改善</li> <li>・自立した生活者に必要な実践力を定着させる学習の充実(教育、食文化等の充実)</li> <li>・健康、安全等を考慮した衣食住の生活を総合的にマネジメントする力を育成するための内容の充実(実習等)</li> <li>・日本の生活文化の継承・創造に係る内容の充実(実習等)</li> <li>○生活の科学的な理解の一層の重視</li> <li>・持続可能な社会の構築に関する内容の改善</li> <li>・消費・環境に配慮したライフスタイルを確立するための意思決定能力の育成を図る内容の充実</li> <li>・消費・環境に係る地域への働きかけなど社会参画力を育成するための内容の充実(実習等)</li> <li>○「ホームプロジェクト」や「学校家庭クラブ活動」等、主体的に取り組む問題解決的な学習を一層充実</li> </ul> |

# 技術・家庭科（技術分野）における教育のイメージ（たたき台）

平成28年4月13日教育課程部会  
家庭・技術・家庭ワークグループ  
資料7-2

## 【高等学校】

（情報の共通必履修科目）

- 情報や情報技術を問題の発見と解決に活用するための科学的な考え方等を育てる。
- ①情報と情報技術及びこれらを活用して問題を発見・解決するための方法と情報社会についての理解と、情報技術を適切に活用するための技能を養う。
- ②問題の発見・解決に向けた情報技術を適切に活用する力と情報を構築する力。
- ③情報報を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画し、その発展に寄与しようとする態度を養う。
- （職業に関する各教科・科目）
  - 各職業分野に関する知識と技術を習得させるとともに、各職業の社会的意義や役割を理解させる。
  - 各職業分野に関する課題（求められる職業能力の高度化、持続可能な社会の構築、グローバル化・少子高齢化等への対応）を発見し、職業人としての倫理観をもつて、合理的かつ創造的に解決する能力を育成する。
  - 職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、産業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を育成する。

## 【参考】中学校 技術・家庭科

- 参考【中学校 技術・家庭科】
- 技術・家庭科の見方や考え方を踏まえて、生活の中から問題を見出して課題を設定し、その解決を目指す実践的・体験的な学習活動を通して、以下の資質・能力を育成する。
- ・生活に必要な基礎的・基本的な知識・技能を習得させ、生活と技術との関わりについて理解を深める。
  - ・問題を見出して課題を設定し、その解決を目指して工夫し創造する能力を育成する。
  - ・生活を充実向上するために進んで実践しようとする態度を育成する。

## 【中学校】

- △技術分野の見方や考え方を踏まえ、生活や社会における技術に関わる問題を見出して課題を設定し、その解決を目指す実践的・体験的な学習活動を通して、以下の資質・能力を育成する。
  - 生活や社会で利用されている技術についての基礎的・基本的な知識・技能を習得させ、技術と生活や社会、環境との関わりについて理解を深める。
  - 生活や社会における問題を、技術を選択、管理・運用、改良、応用するなどして、解決できる能力を育成する。
  - よりよい生活や持続可能な社会を構築するために、適切かつ誠実に技術を工夫し、創造しようとする態度を育成する。
  - 生活や社会における問題を見出し課題を設定した上で、解決方策が最適なものとなるよう設計・計画し、製作・制作・育成を行うとともに、解決結果・解決過程を評価する学習活動を充実する。
  - 技術の高度化とそれに伴うグローバル化や、産業構造の転換等の社会の変化に対応し、ものづくりや日本の伝統的な技術、技術革新及びそれを担う職業・産業への関心、生産などの経済的主体等として求められる働くことの意義の理解や粘り強く物事を前に進める態度、情報活用能力、知的財産を創造・保護・活用していくこととする態度、使用者の安全に配慮して設計・製作したりするなどの倫理観、安全な生活や社会づくりへの貢献等に関する学習を充実する。

## 【小学校】

- 手や全体の感覚等を働かせたり経験を活かしながら、表したいことに合わせて材料や用具を使い、表し方を工夫する（図画工作）
- 身近にある物を使ったりなどして、遊びや遊びに使う物を工夫してつくり、そのおもしろさに気づく（生活）
- ものづくりの活動を通して、自然の事物・現象の性質や動き、規則性についての実感を伴った理解を図る（理科）
- 道徳の内容との関連を踏まえた情報モラルに関する指導（道徳）等

## 【幼児教育】

- （教育課程部会幼児教育部会において、本ワーキンググループでの議論を踏まえ、幼児期の終わりまでに育つてほしい姿の明確化について審議）
- 身近な事象に好奇心や探究心を持って思いを巡らしながら積極的に関わり、物の性質や仕組み等に気付いたり、予想したりなどして多様な関わりを楽しむようになるとともに、友達と考えを思い合わせるなどして、新しい考え方を生み出す喜びを感じながら、よりよいものにするようになる。
  - 自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、身近な事象に關心への関心が高まりつつ、自然への愛情や畏敬の念を持つようになる。

# 技術・家庭科（技術分野）において育成すべき資質・能力の整理（たたき台）

平成28年4月13日教育課程部会  
家庭・技術・家庭ワーキンググループ  
資料13

個別の知識や技能 (何を知っているか、何ができるか)	思考力・判断力・表現力等 (知っていることできることをどう使うか)	学びに向かう力、人間性等 情意、態度等に関わるもの (どのように社会・世界と関わり よりよい人生を送るか)
高等学校	○生活や社会で利用されている技術についての基礎的基本的な知識・技能	○生活や社会における問題を、技術を選択、管理・運用、改良、などして、解決できる能力
中学校	・材料、加工、エネルギー変換、生物育成、情報等の技術に用いられている科学的な原理・法則の知識 ・技術を安全・適切に管理・運用できる技能 ・技術の概念の理解	・生活や社会の中から技術に関する問題を見出し、解決すべき課題を設定する力 ・課題の解決策を条件を踏まえて構想し、試行・試作等を通じて解決策を具体化（設計・計画）する力 ・課題の解決結果及び解決過程を評価し改善・修正する力 ・技術と生活や社会、環境との関わりの理解
小学校		・課題の解決策を製作図、流れ図、作業計画表等に表す力 ・知的財産を創造・保護・活用しようとする態度、技術に関わる倫理観、粘り強く物事を前に進める態度

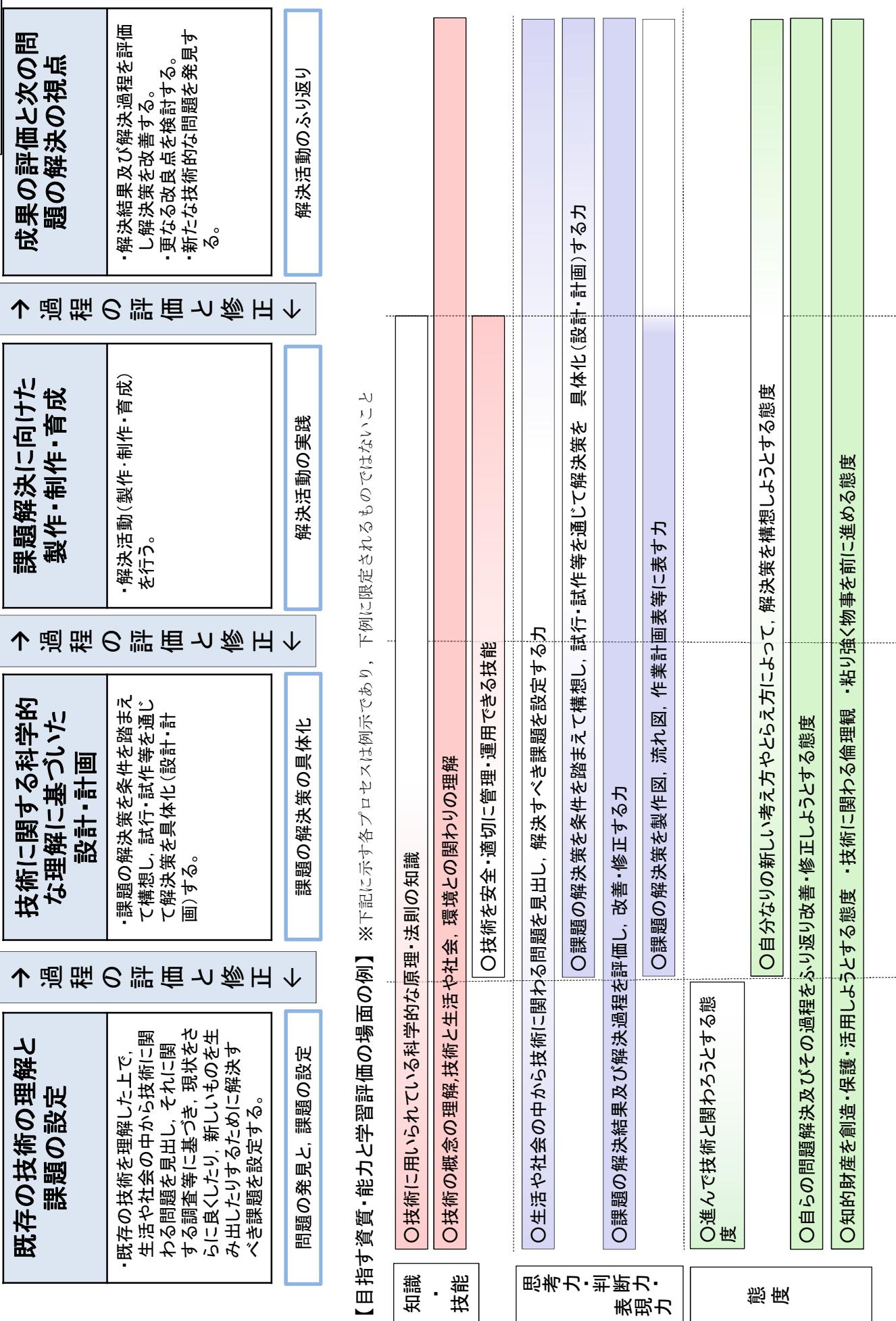
# 技術・家庭科（技術分野）の見方や考え方の整理（たたき台）

## 技術分野の見方や考え方：技術によって問題を解決する際の見方や考え方

	対象	見方	考え方
技術分野 について 内容 A	生活や社会で利用される技術について、	物質、生物、エネルギーや情報の特性に着目するとともに、問題を見出し、解決するに当たり、倫理観をもち、安全性、社会からの要求、環境負荷、費用等を踏まえつつ、	材料の生成・成形、エネルギーの変換・伝達、生物の育成環境、情報の処理手順等を評価し、最適なものとなるよう考察すること。
	材料の技術について	材料を構成する物質の特性や材料の組織に着目するとともに、問題を見出し、解決するに当たり、倫理観をもち、使用時の安全性、社会からの要求、耐久性や機能、生産効率、環境への負荷、資源の有限性等を踏まえつつ	材料の生成方法を評価し、最適なものとなるよう考察すること。
内容 B	加工の技術について	構造、加工の特性に着目するとともに、問題を見出し、解決するに当たり、倫理観をもち、使用時の安全性、社会からの要求、耐久性や機能、生産効率、環境への負荷、資源の有限性等を踏まえつつ	材料の必要な形状・寸法への成形方法、材料の構造を評価し、最適なものとなるよう考察すること。
内容 C	生物育成の技術について	育成する生物の成長、はたらき、生態の特性に着目するとともに、問題を見出し、解決するに当たり、倫理観をもち、使用時や消費する際の安全性、社会からの要求、生産のしくみ、環境への負荷、品質・収量等の効率面、生命倫理等を踏まえつつ	生物の育成環境の調節方法を評価し、最適なものとなるよう考察すること。
内容 D	エネルギー変換の技術について	電気、運動、物質の流れ、熱の特性に着目するとともに、問題を見出し、解決するに当たり、倫理観をもち、使用時の安全性、社会からの要求、出力、環境への負荷、省エネルギー等を踏まえつつ	エネルギーの変換、伝達、利用する方法を評価し、最適なものとなるよう考察すること。
	情報の技術について	情報の表現、記録、計算の特性に着目するとともに、問題を見出し、解決するに当たり、倫理観をもち、使用時の安全性、社会からの要求、情報の倫理やセキュリティ、活用、管理、システム等を踏まえつつ	情報のデジタル化や計算化による処理の方法を評価し、最適なものとなるよう考察すること。

# 技術・家庭庭科（技術分野）の学習プロセスの例（たたき台）

平成28年4月13日教育課程部会  
家庭・技術・家庭ワーキンググループ  
資料15



【目指す資質・能力と学習評価の場面の例】※下記に示す各プロセスは例示であり、下例に限定されるものではないこと

## 現行学習指導要領

# 中学校技術・家庭科（技術分野）の改訂の方向性（たたき合案）

### 検討事項

#### A 材料と加工に関する技術

- (1) 生活や産業の中で利用されている技術
  - (2) 材料と加工法
  - (3) 材料と加工に関する技術を利用した製作作品の設計・製作
- B エネルギー変換に関する技術**
- (1) エネルギー変換機器の仕組みと保守点検
  - (2) エネルギー変換に関する技術を利用した製作品の設計・製作

#### 技術分野の見方や考え方

生活や社会で利用されている技術について、物質、生物、エネルギーや情報の特性に着目するとともに、問題を見出し、解決するに当たり、倫理観をもち、倫理性、社会からの要求、環境負荷、費用等を踏まえつつ、技術を評価し、最適なものとなるよう考察すること

#### 「論点整理」における指摘事項

- ・技術を適切に評価・活用し、安心・安全な生活の実現に貢献できる力
- ・技術を創造し、よりよい社会を構築できる力
- ・育成すべき資質・能力の明確化
- ・技術に関する科学的な理解
- ・技術と社会・環境との関わりの理解の充実
- ・プログラミングや情報セキュリティ等も含めた情報活動能力の育成等の充実
- ・小学校図画工作科、高等学校情報科、職業に関する教科・科目等との関連

#### 関連する会議における提言等

- 世界最先端IT国家創造宣言（平成27年6月30日一部改訂）：初等・中等教育段階におけるプログラミングに関する教育の充実に努め、ITに対する興味を育むとともに、ITを活用して多様化する課題に創造的に取り組む力を育成する。
- 成長戦略の進化のための今後の検討方針（平成28年1月25日）：第4次産業革命に向けた、異なる多様な知を結びつけながら新たな付加価値を生み出す創造的な活動を行うこと
- 知的財産推進計画2015（平成27年6月）：知的財産戦略本部）：青少年の知財に対する意識と知識を向上させ財人財の裾野拡大につなげるべく、小中高等学校において知的財産に関する教育の推進を図る

#### C 生物育成に関する技術

- (1) 生物の生育環境と育成技術
- (2) 生物育成に関する技術を利用した栽培又は飼育

#### D 情報に関する技術

- (1) 情報通信ネットワークと情報モラル
- (2) デジタル作品の設計・制作
- (3) プログラムによる計測・制御

### 今後の方向性(案)

#### 目指す資質・能力等

内 容	
<b>A 材料と加工の技術</b>	○生活や社会を支える材料と加工の技術 ○材料と加工の技術による問題解決 ○社会の発展と材料と加工の技術
<b>B 生物育成の技術</b>	○生活や社会を支える生物育成の技術 ○生物育成の技術による問題解決 ○社会の発展と生物育成の技術
<b>C エネルギー変換の技術</b>	○生活や社会を支えるエネルギー変換の技術 ○エネルギー変換の技術による問題解決 ○社会の発展とエネルギー変換の技術
<b>D 情報の技術</b>	○生活や社会を支える情報の技術 ○コンピュータ・ネットワークによる問題解決 (プログラミングによる動的コンテンツ作成) ○機器の自動化による問題解決 (プログラミングによる計測・制御) ○社会の発展と情報の技術
<b>○適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする態度</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・進んで技術と関わろうとする態度</li> <li>・自分なりの新しい考え方やどちら方によって、解決策を構想しようとする態度</li> <li>・自らの問題解決及びその過程をふり返り改善・修正しようとする態度</li> <li>・知識的財産を創造・保護・活用しようとする態度</li> <li>・知的財産觀、特に物事を前に進める態度</li> </ul>	
<b>○技術に対する評価と次回の問題の視点</b>	
<b>学習プロセス</b>	→ 課題解決に向けた製作・制作 → 過程の評価と修正
<b>既存の技術の理解と課題の設定</b>	→ 技術に関する科学的な理解に基づいた設計・計画 → 過程の評価と修正
<b>○技術による問題解決</b>	
<b>○社会の発展と技術</b>	

# 家庭、技術・家庭科の評価の観点及びその趣旨(たたき台)

平成28年4月13日教育課程部会  
家庭・技術・家庭ワーキンググループ  
資料17

評価の観点 (論点整理)	個別の知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
高等学校 家庭	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
中学校 技術・家庭	生活や技術についての知識・技能 生活や技術に関する基礎的・基本的な生活の中から問題を見出して課題を設定し、その解決のために、生活を科学的に探究し、生涯を見通して生活を創造する能力を身に付けている。 知識・技能を身に付け、生活と技術との関わりについて理解している。	生活を工夫し創造する能力 生活や技術に見出して課題を設定し、その解決を目指して工夫し創造している。	自立した生活者に必要な知識・技能を主体的に身に付けたり、地域社会に参画し、と共に支え合う社会の実現に向けて、家庭や地域の生活を創造しようとする実践的な態度を身に付けたりしている。
(技術分野)	生活や技術についての知識・技能 生活や社会で利用されている技術についての基礎的・基本的な知識・技能を身に付け、技術と社会・環境との関わりについて理解している。	生活を工夫し創造する能力 生活や社会における技術に関する問題を見出しして課題を設定し、その解決を目指して、技術を評価、選択、管理・運用、改良、応用している。	主体的に実践する態度 技術に関する知識・技能を身に付けたり、よりよい生活や持続可能な社会を構築するために適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとしたりしている。
(家庭分野)	生活や技術についての知識・技能 家庭の基本的な機能について理解し、生活の自立に必要な衣食住や家族の生活などに係る技術についての基礎的な知識・技能を身に付けている。	生活を工夫し創造する能力 家庭や地域の生活の中から問題を見出しして課題を設定し、その解決を目指し、これから的生活を展望して生活をよりよくするために工夫し創造している。	主体的に実践する態度 衣食住や家族の生活などに関する知識・技能を主体的に身に付けたり、地域の人々と協働し、生活をよりよくするために進んで活用し、実践しようとしたりしている。
小学校 家庭	家庭生活についての知識・技能 日常生活に必要な衣食住や家族の生活などに関する基礎的・基本的な知識・技能を身に付けている。	生活を創意工夫する能力 日常生活の中から問題を見出して課題を設定し、その解決を目指して生活をよりよくするためを考え工夫している。	主体的に実践する態度 衣食住や家族の生活などに関する知識・技能を主体的に身に付けて、家族の一員として、生活をよりよくするために進んで活用し、実践しようとしたりしている。

## 情報ワーキンググループの今後の検討事項について

### I 小・中・高等学校を通じた情報活用能力の育成について

- ① 小・中・高等学校の各教科等を通じて育まれる情報活用能力について、「三つの柱」に沿ってどのように整理するべきか
- ② 特に、プログラミングや情報セキュリティをはじめとする情報モラルなどに関する学習活動について、学校外の多様な教育活動とも連携しつつ、発達段階に応じてどのように充実を図るべきか
- ③ 関連して、各教科等におけるICTを活用した学習・指導について、「アクティブ・ラーニング」の視点に立った学びを推進する視点も踏まえ、どのように充実を図るべきか

### II 高等学校情報科（各学科に共通する教科）の改善について

- ① 情報の科学的な理解に裏打ちされた情報活用能力を身に付けさせるため、情報科（各学科に共通する教科）の科目の構成、目標、内容及び学習・指導方法等について、どのように改善を図るべきか

### III 学習指導要領の理念を実現するために必要な方策について

- ① 情報教育やICTを活用した学習・指導を充実するため、「カリキュラム・マネジメント」をどのように確立するべきか
- ② 情報教育やICTを活用した学習・指導を充実するため、教員の指導力の向上（養成・採用を含む。）やICT環境の整備等をどのように進めるべきか

※ 第2回以降においては、おおむねI、IIの順に検討し、IIIについては必要に応じて適時検討することとする

## 高等学校情報科（各学科に共通する教科）の改善について

- 検討事項 1 小・中・高等学校を通じて育む「情報に関する資質・能力」を踏まえ、高等学校情報科（各教科に共通する教科）において育む資質・能力は、「三つの柱」に沿ってどのように整理されるか。
- 検討事項 2 高等学校情報科において情報の科学的な理解に裏打ちされた情報活用能力を身に付けさせる上で、特にプログラミングや情報セキュリティに関する学習をどのように充実するべきか。
- 検討事項 3 「論点整理」、高等学校情報科において育む資質・能力（検討事項 1）及び情報科におけるプログラミングや情報セキュリティに関する学習の充実（検討事項 2）を踏まえ、情報科の各科目の目標・内容についてどのように改善を図るべきか。
- 検討事項 4 高等学校情報科の指導において、障害のある生徒に対してどのような配慮が必要と考えられるか。

# 小・中・高等学校を通じた情報教育と高校学校情報科の位置付けのイメージ



高等学校基礎学力  
テスト(仮称)

## 「情報科」

- ◎情報科の見方や考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通じて、以下の資質・能力を育てる
- ①情報と情報技術及びこれらを活用して問題を発見・解決するための知識と技能を習得させ、情報社会と人間との関わりについての理解を深める
- ②問題の発見・解決に向けた情報技術を適切かつ効果的に活用する力を育てる
- ③情報を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画し、その発展に寄与しようとする態度を育てる

## 【高等学校】(各教科等)

- ◎情報社会への主体的な参画に向けて、問題を発見・解決したり自らの考えを形成したりする過程や、情報手段等についての知識と経験を、科学的な知として体系化していくようにするなど、発達段階に応じた資質・能力を高等学校教育の本質的な学びを深める中で身に付ける

## (技術・家庭科「情報に関する技術」)

- 計測・制御やコンピューティングなど、デジタル情報の活用と情報技術を中心的に扱う
- ・アラログ情報とデジタル情報の違い(Webサイトと新聞や書籍等により得られる情報の早さや確かさの違い)など、情報の特性の理解
- ・アラゴンとデジタル情報の違い(Webサイトと新聞や書籍等により得られる情報の早さや確かさの違い)など、情報の特性の理解
- ・コンピュータの構成や情報セキュリティなど、情報手段の仕組みの理解
- ・社会の情報化と情報が社会生活の中で果たしている役割や及ぼしている影響の理解
- ・情報に関する法・制度やマナーの意義についての理解

## 【中学校】(各教科等)

- ◎情報を効果的に活用して問題を発見・解決したり、自らの考えを形成したりする経験や、その過程で情報手段を活用する経験を重ねつつ、抽象的な分析等も行えるようになるなど、発達段階に応じた資質・能力を中学校教育の本質的な学びを深める中で身に付ける

## 【小学校】(各教科等)

- ◎様々な問題の発見・解決の学習を経験しながら、そこに情報や情報手段が活用されていくことや、身近な生活と社会の情報化との関係等を学び、情報や情報手段によさや課題があることに気付くとともに、情報手段の基本的な操作ができるようになるなど、発達段階に応じた資質・能力を小学校教育の本質的な学びを深める中で身に付ける

## 【幼稚園】

幼児教育において培われる基礎(言葉による伝え合い、豊かな感性と表現等)

## 高等学校卒業までに全ての生徒に育むべき情報に関する資質・能力

個別の知識・技能 (何を知っているか、何ができるか)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(思考や創造等に活用される基礎的な情報としての)教科等の学習を通じて、身に付ける知識等</li> <li>・情報を活用して問題を発見・解決したり考え方を形成したりする過程や方法についての理解</li> <li>・問題の発見・解決等の過程において活用される情報手段(コンピュータなど)の特性についての理解とその操作にかかる技能</li> <li>・アラゴンとデジタル情報の違い(Webサイトと新聞や書籍等により得られる情報の早さや確かさの違い)など、情報の特性の理解</li> <li>・コンピュータの構成や情報セキュリティなど、情報手段の仕組みの理解</li> <li>・社会の情報化と情報が社会生活の中で果たしている役割や及ぼしている影響の理解</li> <li>・情報に関する法・制度やマナーの意義についての理解</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報の発見・解決や考え方の形成等の過程において情報手段を活用する能力</li> <li>・自らの考え方の形成や人間関係の形成等を行ったりする能力</li> <li>・目的に応じて必要な情報を収集・選択したり、複数の情報を基に判断したりする能力</li> <li>・情報を活用して問題を発見し、解法を比較・選択し、他者とも協働したりしながら解決のための計画を立てて実行し、結果に基づき新たな問題を発見する等の能力</li> <li>・相手の状況に応じて情報を的確に発信したり、発信者の意図を理解したり、考え方を伝え合いする能力</li> <li>・問題の発見・解決や考え方の形成等の過程において情報手段を活用する能力</li> </ul>
思考力・判断力・表現力等 (知っていることとできることとどう使うか)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報を多角的・多面的に吟味しその価値を見極めていくとする情意や態度等</li> <li>・自らの情報活用を振り返り、評価し改善しようとする情意や態度等</li> <li>・情報モラルや方法に対する責任について考え方行動しようとするとする情意や態度等</li> <li>・情報や情報技術を積極的かつ適切に活用して情報社会(情報の果たす役割が一層重要なにつれていく社会)に主体的に参画し、より望ましい社会を構築していくとする情意や態度等</li> </ul>
学びに向かう力、人間性等 (どのように社会・世界と関わりよりよい人生を送るか)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学びに向かう力、人間性等</li> <li>・(どのように社会・世界と関わりよりよい人生を送るか)</li> </ul>

# 高等学校情報科において育む資質・能力

## 個別の知識・技能 (何を知っているか、何ができるか)

## 思考力・判断力・表現力等 (知っていること・できることをどう使うか)

## 学びに向かう力、人間性等 (どのように社会・世界と関わるか) よりよい人生を送るか)

- ・情報と情報技術を適切に活用するための知識と技能
- ・情報と情報技術を活用して問題を発見・解決するための方法についての理解
- ・情報社会の進展とそれが社会に果たす役割と及ぼす影響についての理解
- ・情報に関する法・制度やマナーの意義と情報社会において個人が果たす役割や責任についての理解

- ・様々な事象を情報とその結び付きの視点から捉える力
- ・問題の発見・解決に向けた情報技術を適切かつ効果的に活用する力
- ・複数の情報を結び付けて新たな意味を見いだす力

- ・情報を多角的・多面的に吟味しその価値を見極めているとするとする態度
- ・自らの情報活用を振り返り、評価し改善しようとする態度
- ・情報モラルや情報に対する責任について考え行動しようとする態度
- ・情報社会に主体的に参画し、その発展に寄与しようとする態度

## (参考)高等学校卒業までに全ての生徒に育むべき情報に関する資質・能力

### 個別の知識・技能 (何を知っているか、何ができるか)

### 学びに向かう力、人間性等 (どのように社会・世界と関わるか) よりよい人生を送るか)

- ・(思考や創造等に活用される基礎的な情報としての)教科等の学習を通じて身に付ける知識等
- ・情報を活用して問題を発見・解決したたり考えを形成したりする過程や方法についての理解
- ・問題の発見・解決等の過程において活用される情報手段(コンピュータなど)の特性についての理解とその操作に関する技能
- ・アナログ情報とデジタル情報の違い(Webサイトと新聞や書籍等により得られる情報の早さや確かさの違い)
- ・コンピュータの構成や情報セキュリティなど、情報手段の仕組みの理解
- ・社会の情報化と情報が社会生活の中で果たしている役割や及ぼしている影響の理解
- ・情報に関する法・制度やマナーの意義についての理解

- ・情報を多角的・多面的に吟味しその価値を見極めているとするとする態度
- ・自らの情報活用を振り返り、評価し改善しようとする態度
- ・情報モラルや情報に対する責任について考え行動しようとする態度
- ・情報や情報技術を積極的に活用して情報社会(情報の果たす役割が一層重要なにつなっていく社会)に主体的に参画し、より望ましい社会を構築していくこととする情意や態度等
- ・問題の発見・解決や考え方の形成等の過程において情報手段を活用する能力

# (参考) 情報教育の目標の「3観点」との関係のイメージ

126

「情報化の進展に対応した初等中等教育における情報教育の推進等に関する調査研究協力者会議」第1次報告(平成9年10月)において整理された、情報教育の目標の「3観点」と、資質・能力の「3つの柱」との関係の考え方

## 資質・能力の「3つの柱」

個別の知識・技能  
何を知っているか、何ができるか

思考力・判断力  
・表現力等  
知っていること・できることをどう使うか

学びに向かう力、  
人間性等  
どのように社会・世界と関わり、  
よりよい人生を送るか

## 情報教育の目標の「3観点」

### 情報実践力

課題や目的に応じて情報手段を適切に活用することを含めて、必要な情報を主体的に収集・判断・表現・処理・創造し、受け手の状況などを踏まえて発信・伝達できる能力

### 情報的科 学的な理解

情報活用の基礎となる情報手段の特性と、情報を適切に扱ったり、自らの情報活用を評価・改善するための基礎的な理論や方法の理解

### 情報社会に 参画する態度

社会生活の中で情報や情報技術が果たしている役割や及ぼしている影響を理解し、情報モラルの必要性や情報に対する責任について考え、望ましい情報社会の創造に参画しようとする態度

## 具体的な指導項目を整理するための8区分(要素)

### 内容・学習活動の視点からの整理

### 情報活用能力

### 資質・能力の視点からの整理

# 高等学校情報科における「見方・考え方」

社会、産業、生活、自然等の種々の事象を情報とその結びつきとして把握し、見通しをもつた試行錯誤と評価・改善とを重ねながら、問題の発見・解決に向けた情報技術の適切かつ効果的な活用(プログラミング、モデル化ビジュレーション、情報デザイン等)を探求する。

【世界をどのように捉えるか】  
事象を抽象化して、情報とその結び付きとして把握

社会、産業、生活、自然等の種々の事象

解決すべき問題

複数の情報間の結び付き

抽象化された事象＝情報

## 【どのような枠組みで思考するか】

見通しをもつた試行錯誤と評価・改善とを重ねながら、問題の発見・解決に向けた情報技術の適切かつ効果的な活用(プログラミング、モデル化ビジュレーション、情報デザイン等)を探求  
「効果的な活用」…解決が可能となるように問題を細分化することや、処理を最適化することなどを含め、コンピュータ等の特性をできる限り生かして問題の発見・解決ができるようになります

## 【思考の基礎】

- ・情報の特性、情報技術の特性、問題発見・解決の手法等に関する科学的な理解
- ・情報モラルへの配慮や自らの情報活用を振り返り、評価・改善しようとする態度 等

情報科の特徴  
コンピュータや情報社会についてだけでなく、問題の発見・解決の過程や手法そのもの(とりわけ情報技術の活用によるもの)を学ぶ教科

# 情報科におけるアクティブ・ラーニングのイメージ(たたき台案)

28

## 【基本的な考え方】

- 特定の型や、方式化された授業の方法や技術ではなく、授業改善の考え方として捉える。
- 子供の学びへの積極的関与と深い理解を促すような指導や学習環境を設定することにより、子供たちの自信を育み、必要な資質・能力を身に付けていくことができるようになる。
- 具体的な学習プロセスは限りなく存在しうるものであり、教員一人人が、子供たちの発達の段階や発達の特性、子供の学習スタイルの多様性や教育的ニーズと学習内容、単元の構成や学習の場面等に応じた方法について研究を重ね、ふさわしい方法を選択しながら、工夫して実践できるようにすることが重要。

## 【知識の概念化・構造化

- ・問題の発見・解決に情報技術を活用する能力の向上
  - ・情報社会に参画する態度の育成
- 生涯にわたって情報技術を活用し現実の問題を発見し解決していくことができる

## 【深い学び】習得・活用・探究という学習プロセスの中で、問題発見・解決を念頭に置いた学びの過程の実現

- 具体的な問題の発見・解決に取り組むことを通して、日常生活の中で問題の発見・解決を行っていることを認識し、その過程や手法を意識し考えるとともに、「情報技術の適切かつ効果的な活用を探求する。OICTの積極的な活用を通して、情報社会との適切かつ豊かな関わり方について考える。OICTを活用し、試行錯誤して目的を達成することにより、コンピュータをはじめとする情報や情報技術についての本質的な理解に迫る。

## 【対話的な学び】他者との協働や外界との相互作用を通じて、自らの考えを広げる学びの過程の実現

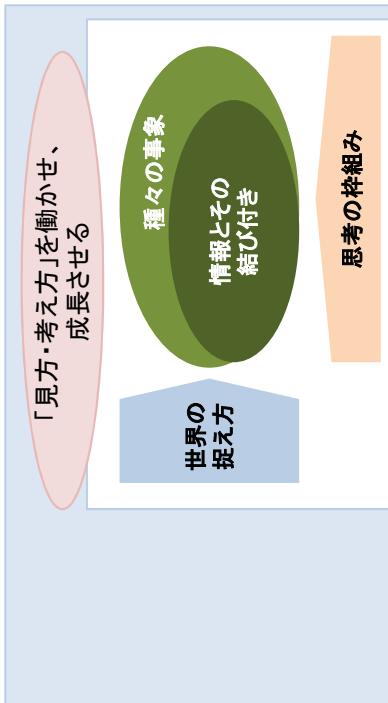
- 問題を発見し明確化する過程でデータを根拠とした話し合いを行うことによって、より合理的な視点から吟味する。OICTを積極的に活用して、役割を分担し協働してプログラムの作成等に取り組んだり、各自が作成したプログラム等を互いに評価し合ったりすることにより、処理の最適化など情報技術のより効果的な活用を志向し探求する。
- 産業の現場で情報システムを開発している人々やそれらを活用している人々と関わることなどにより、現実の問題解決に情報技術の活用が有効であることなどを実感し、自己の問題解決に取り組む。

## 【主体的な学び】見通しをもって粘り強く取り組み、自らの学習活動を振り返って次につなげる学びの過程の実現

- 情報技術を活用して身近な問題を発見・解決することにより、達成感を味わうとともに、その有用性を見いだし、積極的に活用する。
- 見通しをもつて試行錯誤することを通して、自らの情報活用を振り返り、評価・改善して、次の問題解決に取り組む。OICTを積極的に活用することにより、学習意欲を高めるとともに、個々の興味・関心や能力・適性に応じてより進んだ課題に取り組むようになる。

## 【知識の概念化・構造化

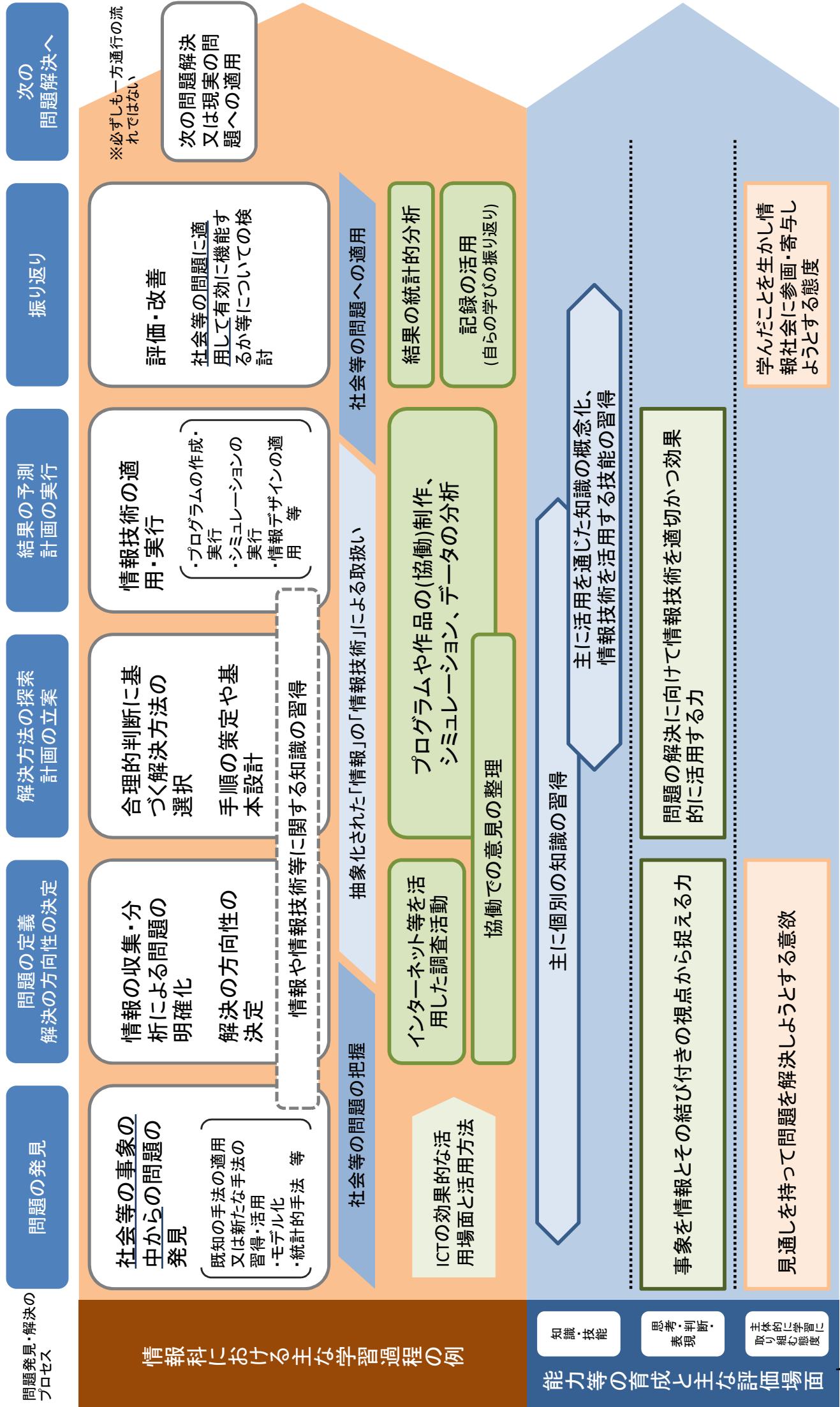
- ・問題の発見・解決に情報技術を活用する能力の向上
  - ・情報社会に参画する態度の育成
- 生涯にわたって情報技術を活用し現実の問題を発見し解決していくことができる



- 【情報科におけるアクティブ・ラーニング】
- 問題の発見・解決に情報技術を活用する能力の向上
  - 情報社会に参画する態度の育成
  - 生涯にわたって情報技術を活用し現実の問題を発見し解決していくことができる

- ・基本的な知識・技能の習得
- ・情報、情報技術や問題解決の手法等についての知識・理解
- ・情報社会についての知識・理解
- ・情報や情報技術を活用する技能 等

# 情報科における学習プロセスの例(たたき台案)



# 共通教科情報科の評価の観点について（たたき台）

130

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
情報と情報技術を問題の発見・解決に活用するための知識と技能を身に付け、情報化の進展する社会の特質及びそのような社会と人間との関わりについて理解している。	事象を情報とその結び付きの視点から捉え、問題の発見・解決に向けて情報技術を適切かつ効果的に活用している。	情報社会との関わりについて考えながら、問題の発見・解決に向けて主に情報及び情報技術を活用し、自ら評価し改善しようとしている。
（参考）現行の評価の観点及びその趣旨	関心・意欲・態度 思考・判断・表現 技能	知識・理解

# 情報科新科目のイメージ（案）

「情報Ⅰ（仮称）」（情報と情報技術を問題の発見と解決に活用するための科学的な考え方等を育成する共通必履修科目）

問題の発見・解決に向けた、事象を情報とその結び付きの視点から捉え、情報技術を適切かつ効果的に活用する力を育む科目

（項目の構成案）

（1）情報社会の問題解決  
中学校までに経験した問題解決の手法や情報モラルなどを振り返り、これを情報社会の問題の発見と解決に適用して、情報社会への参画について考える。

（2）コミュニケーションと情報デザイン  
情報デザインに配慮した的確なコミュニケーションの力を育む。

（3）コンピュータとプログラミング  
プログラミングによりコンピュータを活用する力、事象をモデル化して問題を発見したりコミュニケーションを通じてモデルを評価したりする力を育む。

（4）情報通信ネットワークとデータの利用  
情報通信ネットワークを用いてデータを活用する力を育む。

「情報Ⅱ（仮称）」（発展的な内容の選択科目）

「情報Ⅰ（仮称）」において培った基礎の上に、問題の発見・解決に向けて、情報システムや多様なデータを適切かつ効果的に活用し、あるいは情報コンテンツを創造する力を育む科目

（項目の構成案）

（1）情報社会の進展と情報技術  
情報社会の進展と情報技術との関係について歴史的に捉え、AI等の技術も含め将来を展望する。

（2）コミュニケーションと情報コンテンツ  
画像や音、動画を含む情報コンテンツを用いた豊かなコミュニケーションの力を育む。

（3）情報とデータサイエンス  
データサイエンスの手法を活用して情報を精査する力を育む。

（4）情報システムとプログラミング  
情報システムを活用するためのプログラミングの力を育む。

情報Ⅰ（仮称）及び情報Ⅱ（仮称）の（1）～（4）における学習を総合し深化させ、問題の発見・解決に取り組み、新たな価値を創造する。

# 情報科新科目のイメージ（詳細版：案）

3 情報 I (仮称)

項目	資質・能力(指導内容の構造)	学習活動(課題設定)の例
(1) 情報社会の問題解決	<p>中学校までに経験した問題解決の手法や情報モラルなどを振り返り、これを情報社会の問題の発見と解決に適用して、情報社会への参画について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>i ) 中学校までに学習した知識・技能の再確認(情報化が社会に果たす役割と及ぼす影響、情報に関する法・制度やマナー、情報モラル、情報セキュリティ等)、問題発見・解決の手法</li> <li>ii ) 問題の発見・解決に情報技術を適切かつ効果的に活用する力</li> <li>iii ) 問題の発見・解決に情報技術を適切かつ効果的に活用しようとする態度、情報モラルなどに配慮し情報社会に主体的に参画しようとする態度</li> </ul>	<p>Q:「現在の情報社会にはどのような問題があるか、その解決も含めて根拠を挙げて考えてみよう。」</p> <p>その際、問題解決の基本的方法に沿って、問題の発見・解決と評価を行うとともに、問題の解決に当たっては、統計的手法などを用い、問題の解決に当たっては、適切な情報技術を選択し効果的に活用するようにする。</p>
(2) コミュニケーションと情報デザイン	<p>情報デザインに配慮した的確なコミュニケーションの力を育む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>i ) 情報とメディアの特徴、情報のデジタル化、情報デザインのルール(ユーザビリティ、アクセシビリティなど)、情報の信頼性や信憑性、著作権などへの配慮、情報化によるコミュニケーションの変化</li> <li>ii ) 情報デザインを適切かつ効果的に適用してコミュニケーションする力</li> <li>iii ) 情報を吟味しその価値を見極めていこうとする態度、情報モラルなどに配慮し情報社会に主体的に参画しようとする態度</li> </ul>	<p>Q:「学校や部活動を紹介するWebページを作ることを通して、見やすく、使いやすく、内容が的確に伝わるWebページとはどのようなものかを考えてみよう。」</p> <p>その際、情報を整理しルールに従ってデザインすることの有用性を実感するようにする。</p>
(3) コンピュータとプログラミング	<p>プログラミングによりコンピュータを活用する力、事象をモデル化して問題を発見したりシミュレーションを通してモデルを評価したりする力を育む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>i ) コンピュータ内部での情報の表し方、コンピュータで情報が処理される仕組み、アルゴリズム、モデル化とシミュレーションの考え方、最適化の考え方</li> <li>ii ) 問題の発見・解決に向けて適切かつ効果的にプログラミングしたり、モデル化やシミュレーションをしたりする力</li> <li>iii ) 自らの情報活用を振り返り評価・改善し(見通しをもつて試行錯誤し)情報技術を適切かつ効果的に活用しようとする態度、情報社会に主体的に参画しようとする態度</li> </ul>	<p>Q:「ワープロソフトや表計算ソフトなどの内部ではどのようなプログラムが動き情報が処理されているのか考えてみよう。」</p> <p>その際、基本的な機能を実現するアルゴリズムについて考え、プログラムを作成するとともに、その最適化も行うようする。</p> <p>Q:「インフルエンザが爆発的に増える理由、感染を抑えるための方法について考えてみよう。」</p> <p>その際、関係する変数が少なくその関係を数式で表すことができるように問題を扱い、問題の解決に必要な条件を見いだしその関係性を記述するようにする。</p>
(4) 情報通信ネットワークとデータの利用	<p>情報通信ネットワークを用いてデータを活用する力を育む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>i ) 情報通信ネットワークの仕組み、プロトコルの役割、情報セキュリティを確保する仕組み、クラウドコンピューティングやデータベースの概念</li> <li>ii ) 問題の発見・解決に情報通信ネットワークやデータを適切かつ効果的に活用する力</li> <li>iii ) 自らの情報活用を振り返り評価・改善し情報技術を適切かつ効果的に活用しようとする態度、情報セキュリティなどに配慮して情報社会に主体的に参画しようとする態度</li> </ul>	<p>Q:「修学旅行の行き先などについてのアンケートをWebサイトに設置して実施し、その仕組みを考えてみよう。」</p> <p>その際、Webサーバ、コンテンツマネジメントシステム、データベースの連携と情報セキュリティを確保する仕組みの概要を理解するようにする。</p>

## 情報Ⅱ(仮称)

項目	資質・能力(指導内容の構造)	学習活動(課題設定)の例
(1) 情報社会の進展と情報技術	<p>情報社会の進展と情報技術との関係について歴史的に捉え、AI等の技術も含め将来を展望する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>i ) 情報技術と情報社会の関係の歴史的概観、AI等今日・将来的技術の概観</li> <li>ii ) 問題の発見・解決に情報技術を適切かつ効果的に活用する力</li> <li>iii ) 問題の発見・解決に情報技術を適切かつ効果的に活用しようとする態度、情報社会に主目的に参画しその発展に寄与しようとする態度</li> </ul>	<p>Q:「情報技術の進展によって、情報社会やコミュニケーションの方法はどうに変わってきたのか、また今後どうのうな技術が現れどのようなに変わっていくかを考えよう。」</p> <p>その際、既存技術の改善と新たな技術の開発の両面に着目するようにする。</p>
(2) コミュニケーションと情報コンテンツ	<p>画像や音、動画を含む情報コンテンツを用いた豊かなコミュニケーションの力を育む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>i ) 多様な情報コンテンツの特性及び処理と表現の方法、データ圧縮の方法</li> <li>ii ) 多様な情報コンテンツを適切かつ効果的に適用してコミュニケーションする力</li> <li>iii ) 情報を吟味しその価値を見極めていこうとする態度、情報社会に主目的に参画しその発展に寄与しようとする態度</li> </ul>	<p>Q:「学校紹介などの具体的な目的に沿って、画像、音声、動画、アニメーションなどのメディアを含むデジタルコンテンツを作成してみよう。」</p> <p>その際、閲覧者の操作に対応するインターラクティブ性を持たせるようにする。</p>
(3) 情報とデータサイエンス	<p>データサイエンスの手法を活用して情報を精査する力を育む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>i ) 多様なデータの特性及び処理と表現の方法、統計的手法の活用、ビッグデータの分析方法</li> <li>ii ) 問題の発見・解決に向けて多様なデータを適切かつ効果的に活用する力</li> <li>iii ) 情報を吟味しその価値を見極めていこうとする態度、情報社会に主目的に参画しその発展に寄与しようとする態度</li> </ul>	<p>Q:「コンビニの弁当の販売計画はどのように立てられているのかを考え、立案してみよう。」</p> <p>その際、関係する变数が多く、数式で表すことが難しく、考慮すべきデータも多い問題を扱い、その分析方法を考えるようにする。</p>
(4) 情報システムとプログラミング	<p>情報システムを活用するためのプログラミングの力を育む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>i ) 複数の情報機器が協調して働くシステム、情報セキュリティ(暗号化など)、システム設計、プロジェクトマネジメント</li> <li>ii ) 問題の発見・解決に向けて適切かつ効果的な情報システムの設計しプログラミングする力</li> <li>iii ) 自らの情報活用を振り返り評価・改善し(見通しをもつて試行錯誤し)情報技術を適切かつ効果的に活用しようとする態度、情報社会に主目的に参画しその発展に寄与しようとする態度</li> </ul>	<p>Q:「一人暮らしの高齢者の状況を見守り、異常があれば遠く離れた子供のスマートフォンにメッセージを届けるシステムを作つてみよう。」</p> <p>その際、必要なサブシステムを考えてプログラムを作成しそれを統合するようにする。</p>
○ 課題研究	<p>情報Ⅰ(仮称)及び情報Ⅱ(仮称)の(1)～(4)における学習を総合し深化させ、問題の発見・解決に取り組み、新たな価値を創造する。</p> <p>※ 独立した項目として位置付けるか等は引き続き検討する</p>	